

トヨタ純正

バックブザー

取付要領書

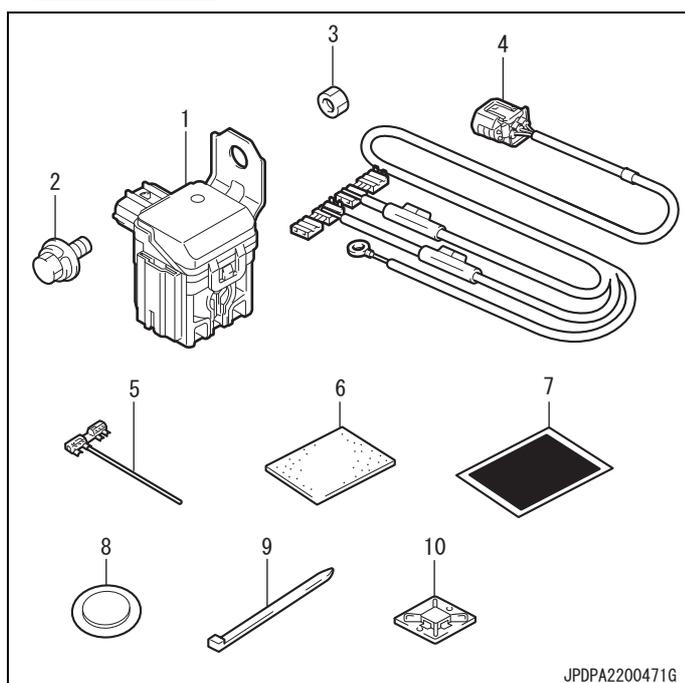
このたびは、トヨタ純正「バックブザー」をお買いあげいただきありがとうございました。
本書は、「バックブザー」の取り付け要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読みいただき、正しい取り付けをしてください。

品番

品 番
086A2-26010

※ 夜間減音機構付き

構成部品



JPDPA2200471G

No	品 名	個数
1	本体	1
2	ボルト (M8 × l 20)	1
3	ナット (M8)	1
4	ワイヤーハーネス	1
5	サブハーネス	1
6	パッキン	8
7	保護シート	4
8	ブチルテープ	1
9	バンドクランプ	6
10	クランプ	1

068787-0480
(JPZ100276J)

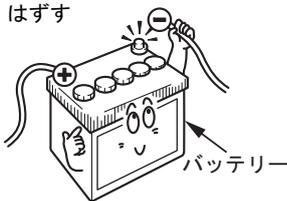
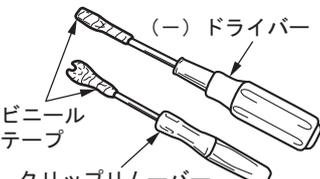
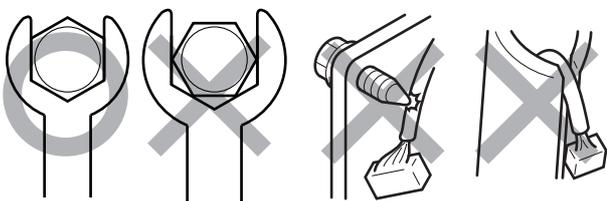
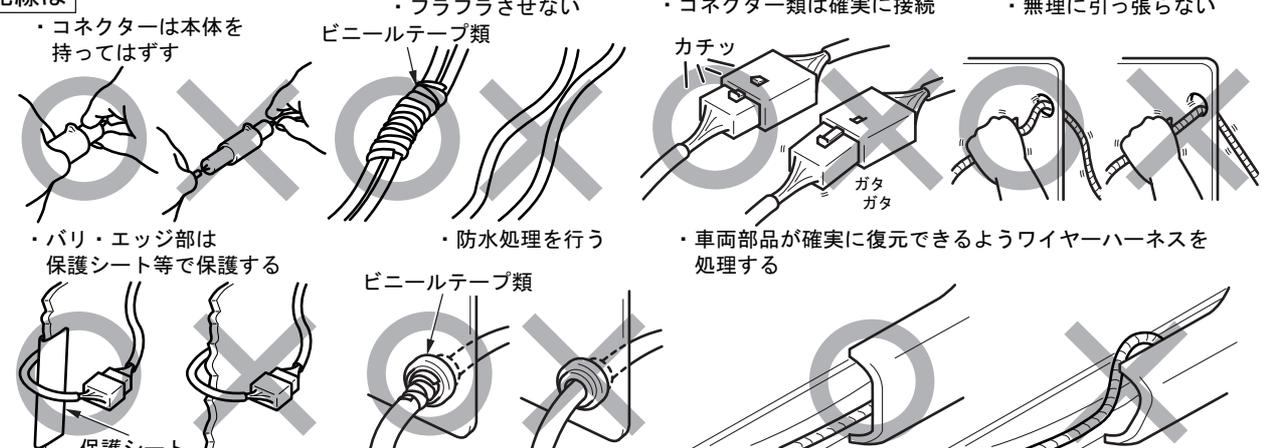
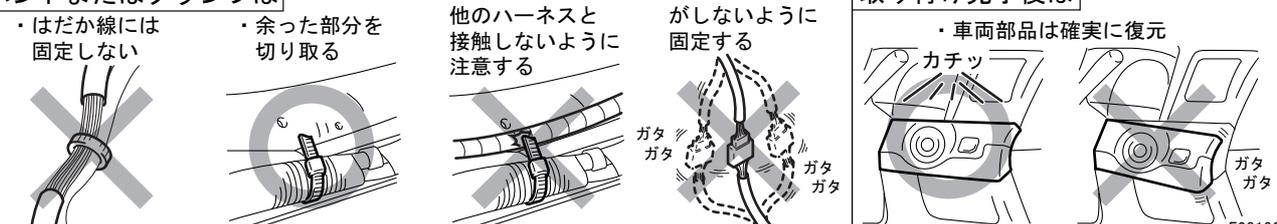
トヨタ自動車株式会社

用語の定義

△警告	警告事項を守らないと生命の危機、または重大な傷害につながる恐れがあることを記載しています。
△注意	注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたりする等の恐れがあることを記載しています。
👉アドバイス	スピーディーに作業していただく上で知っておいていただきたいことを記載しています。
「前・後・左・右」	車両運転状態（運転者が車両前方を見た状態）での向きを表します。

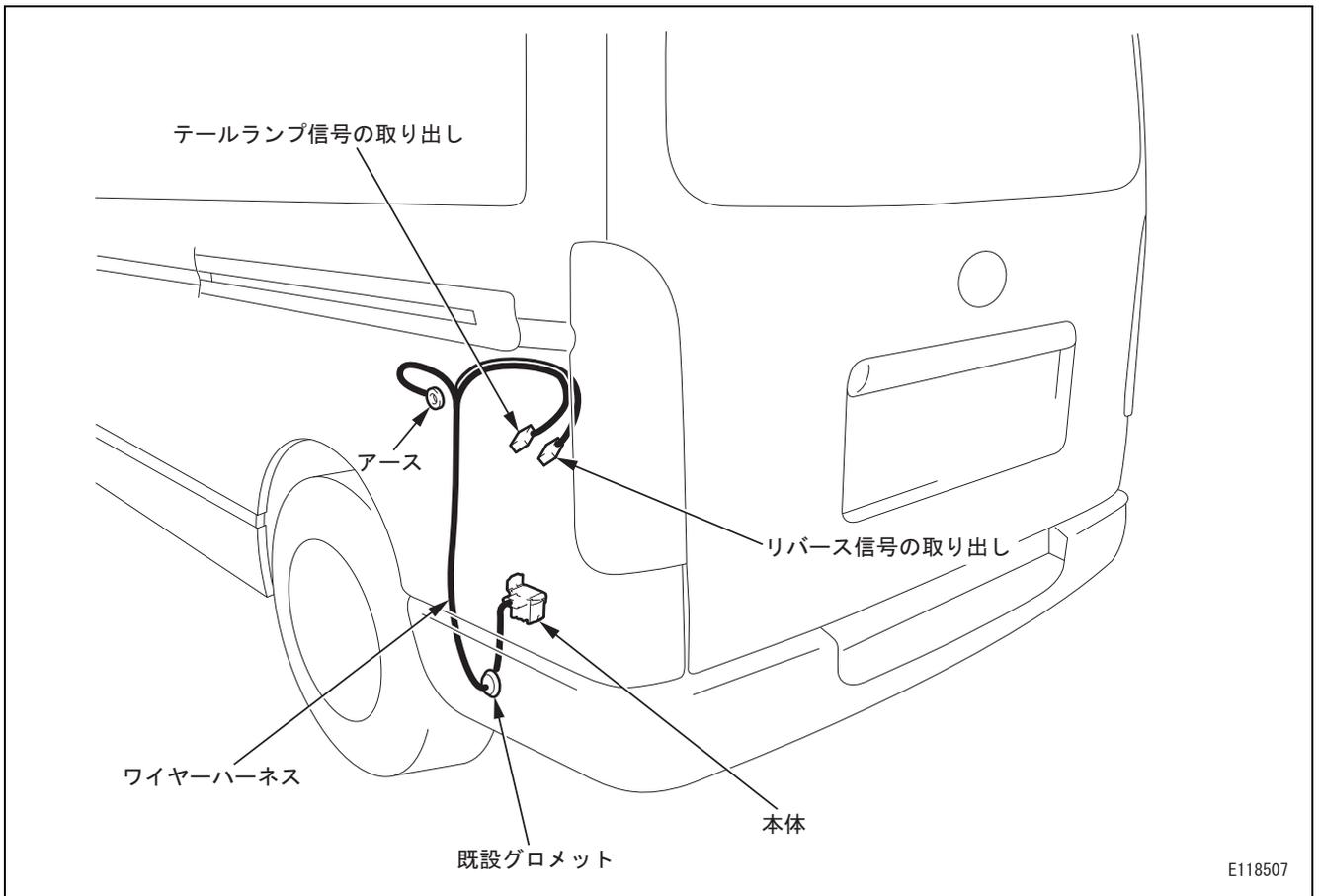
取り付け上の注意事項

1. 本製品を取り付ける前に車両各部の点検をして、正常に作動することを確認してください。
2. 本文中の取り付け上の△警告、△注意、👉アドバイスは、必ず取り付けに反映させて作業をしてください。
3. 車両部品の取りはずしに際して、タッピングスクリューやボルト、ナット類の紛失や混乱がないように部品ごとに整理して、復元する際に間違えないよう配慮してください。また、傷を付けたりしないように取り扱いに注意して作業をしてください。
4. 本書で指示した以外の車両部品を取りはずさないでください。
5. バッテリー復元作業終了後に、車両機能部品の初期化が必要な部品がありますので、必ず初期化作業をしてください。
6. 貼り付け面に油脂分や汚れが付いている場合、脱落や剥がれの原因になりますので、脱脂剤等で十分に拭き取り脱脂してください。
7. 脱脂剤等を使用する場合、火気に十分注意してください。

<p>取り付ける前に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーの（-）端子をはずす  <p>※車両によっては車両部品を取りはずす必要があります</p>	<p>工具での傷付き防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（-）ドライバー、クリップリムーバーなどの先端にはビニールテープ類を巻いておく  <p>（-）ドライバー ビニールテープ クリップリムーバー</p>	<p>部品の取り付けは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寸法にあった工具を使う ・裏側に注意する ・ハーネスの噛み込みに注意する 
<p>配線は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コネクターは本体を持ってはずす ・バリ・エッジ部は保護シート等で保護する ・ブラブラさせないビニールテープ類 ・防水処理を行う ・コネクター類は確実に接続 ・無理に引っ張らない ・車両部品が確実に復元できるようワイヤーハーネスを処理する  <p>保護シート</p>		
<p>バンドまたはクランプは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はだか線には固定しない ・余った部分を切り取る ・切り取った末端が他のハーネスと接触しないように注意する ・コネクターを異音がないように固定する  <p>ガタ ガタ</p>		

E081923

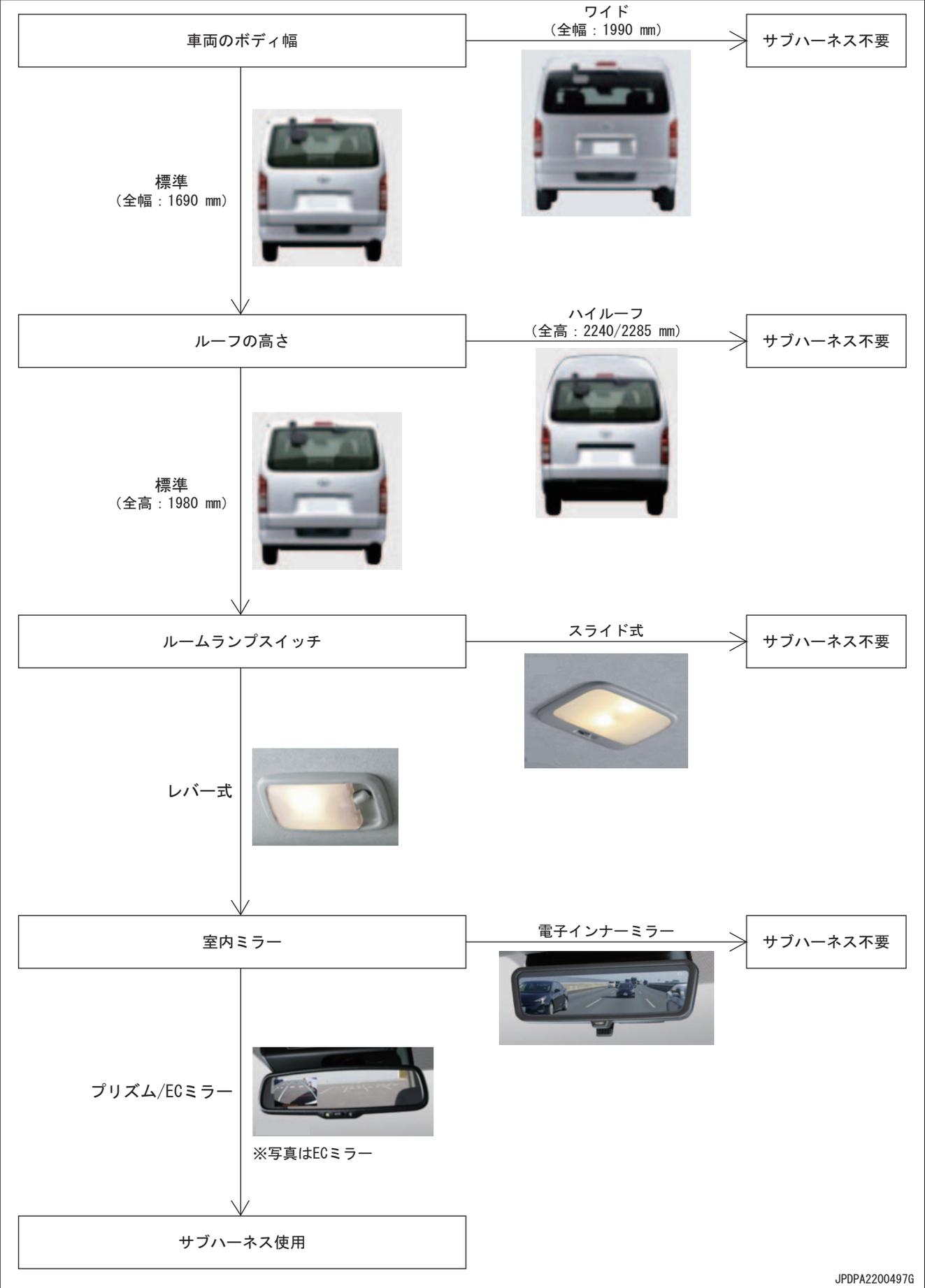
取り付け概要



取り付けに必要な工具

- | | | |
|---|----------------------------|----------|
| (1) 一般工具 | (2) トルクレンチ | (3) 定規 |
| (4) 保護テープ | (5) ビニールテープ | (6) メジャー |
| (7) カッター | (8) はさみ | (9) 針金 |
| (10) ケブラ手袋 | (11) 布 (500 mm×300 mm) 1 枚 | |
| (12) 脱脂剤等【イソプロピルアルコール (IPA) 純度 100% 推奨】 | | |

サブハーネスの要否判定フローチャート

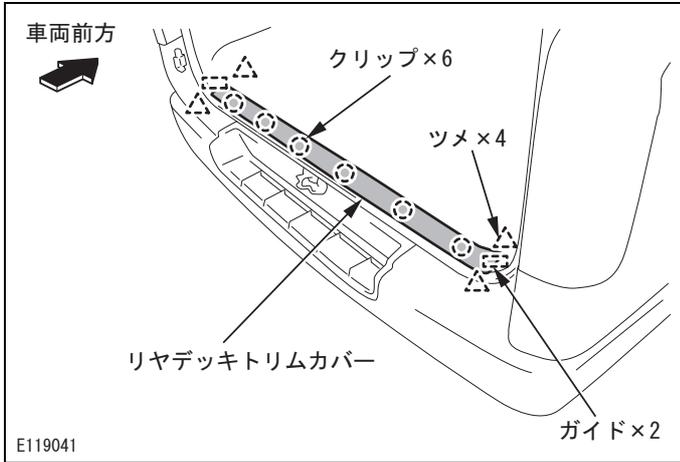


取り付け要領

バッテリーの(-)端子をはずす。

⚠警告

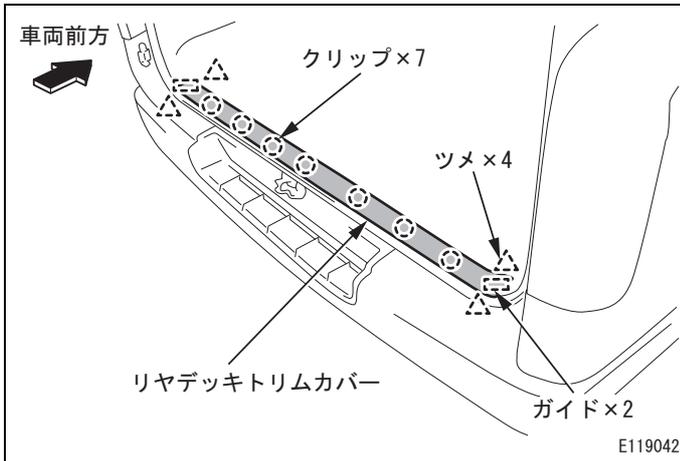
バッテリーの(-)端子をはずさずに作業をして、ショートした場合、傷害、火災および車両や製品の故障、破損につながるおそれがあります。



1. 車両部品の取りはずし

■成形トリム (LH) 付き車かつボデー幅：標準の場合

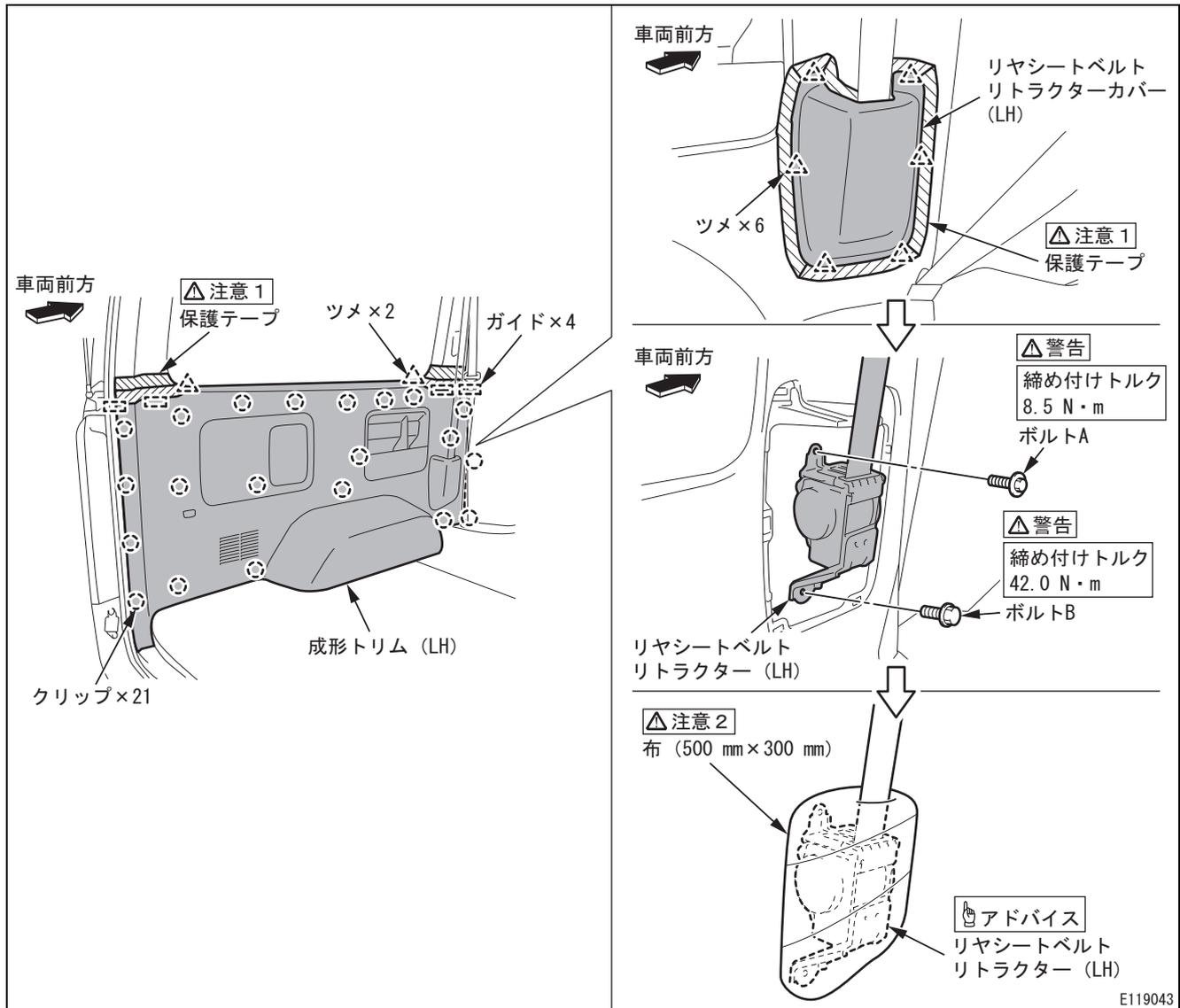
- (1) リヤデッキトリムカバー (クリップ 6 箇所、ツメ 4 箇所、ガイド 2 箇所) を取りはずす。



■成形トリム (LH) 付き車かつボデー幅：ワイドの場合

- (2) リヤデッキトリムカバー (クリップ 7 箇所、ツメ 4 箇所、ガイド 2 箇所) を取りはずす。

■成形トリム（LH）付き車の場合



E119043

(3) リヤシートベルトリトラクターカバー（LH）（ツメ 6 箇所）を取りはずす。

△ 注意

1. 車両に傷が付かないように、上図の位置に保護テープを貼ってください。
（保護テープを貼らずに作業した場合、車両に傷が付くおそれがあります。）

(4) リヤシートベルトリトラクター（LH）のボルト（2 個）を取りはずす。

△ 警告

復元の際、締め付けトルクを厳守して作業してください。

ボルト A : 8.5 N・m

ボルト B : 42.0 N・m

(5) リヤシートベルトリトラクター（LH）を布（500 mm×300 mm）で覆う。

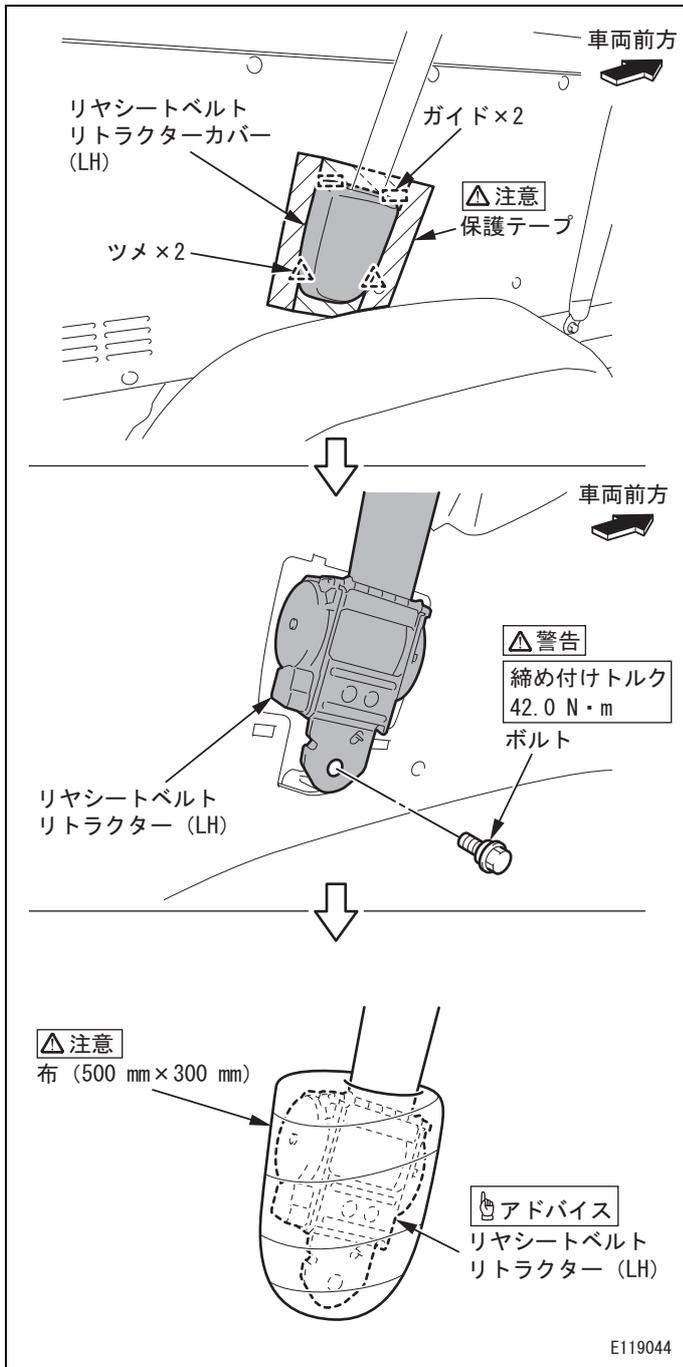
△ 注意

2. 車両に傷が付かないように、リヤシートベルトリトラクター（LH）を布（500 mm×300 mm）で覆ってください。
〔布（500 mm×300 mm）で覆わずに作業した場合、車両部品に傷が付くおそれがあります。〕

👉 アドバイス

リヤシートベルトリトラクター（LH）は後工程でワイヤーハーネスの配線作業をしますので、仮置きした状態にしてください。

(6) 成形トリム（LH）（クリップ 21 箇所、ツメ 2 箇所、ガイド 4 箇所）を取りはずす。



■平トリム (LH) 付き車かつ3列目シートベルト付き車の場合

(7) リヤシートベルトリトラクターカバー (LH) (ツメ2箇所、ガイド2箇所) を取りはずす。

△注意

車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業した場合、車両に傷が付くおそれがあります。)

(8) リヤシートベルトリトラクター (LH) のボルト (1個) を取りはずす。

△警告

復元の際、締め付けトルクを厳守して作業してください。

42.0 N・m

(9) リヤシートベルトリトラクター (LH) を布 (500 mm×300 mm) で覆う。

△注意

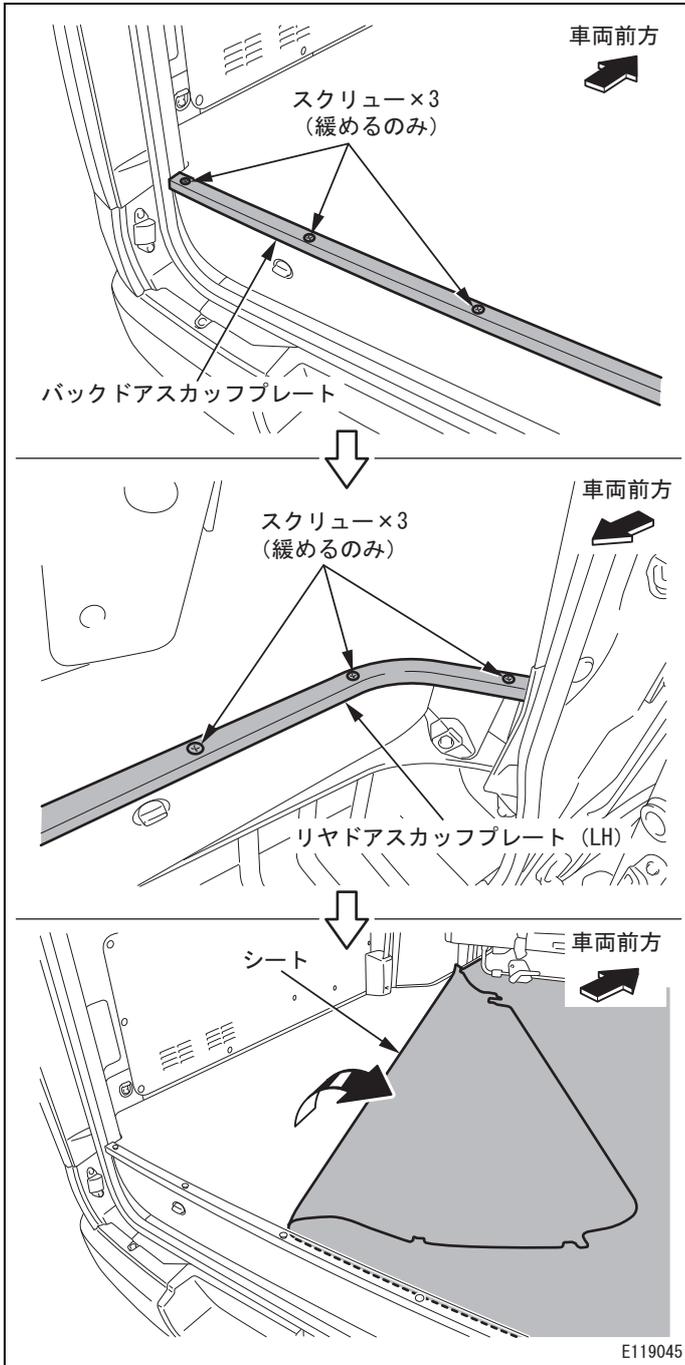
車両に傷が付かないように、リヤシートベルトリトラクター (LH) を布 (500 mm×300 mm) で覆ってください。

[布 (500 mm×300 mm) で覆わずに作業した場合、車両部品に傷が付くおそれがあります。]

👉 アドバイス

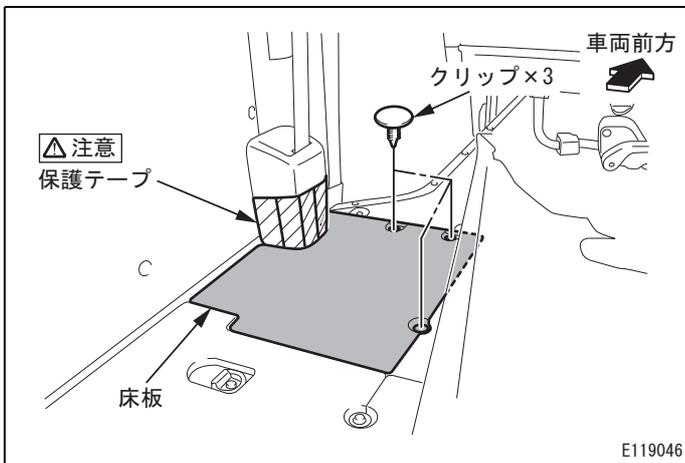
リヤシートベルトリトラクター (LH) は後工程でワイヤーハーネスの配線作業をしますので、仮置きした状態にしてください。

E119044



■フロア形状が『ジャストロー』かつ 2列目シートベルト付き車の場合

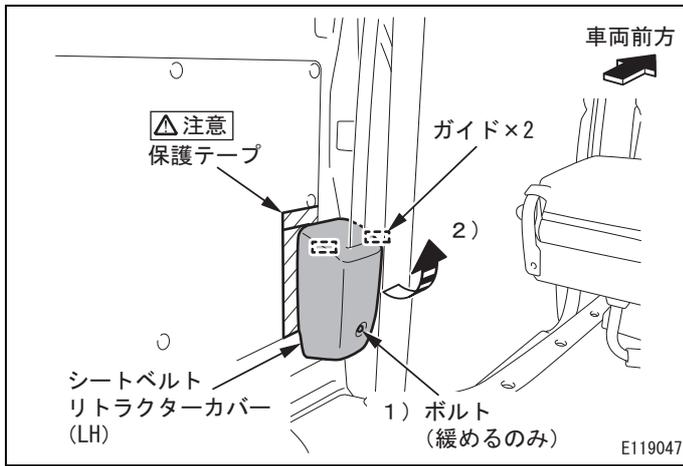
- (10) バックドアスカッフプレートのスクリュー (3個) を緩め、浮かす。
- (11) リヤドアスカッフプレート (LH) のスクリュー (3個) を緩め、浮かす。
- (12) シートをめくる。



- (13) 床板 (クリップ3箇所) を取りはずす。

△注意

車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業した場合、車両に傷が付くおそれがあります。)



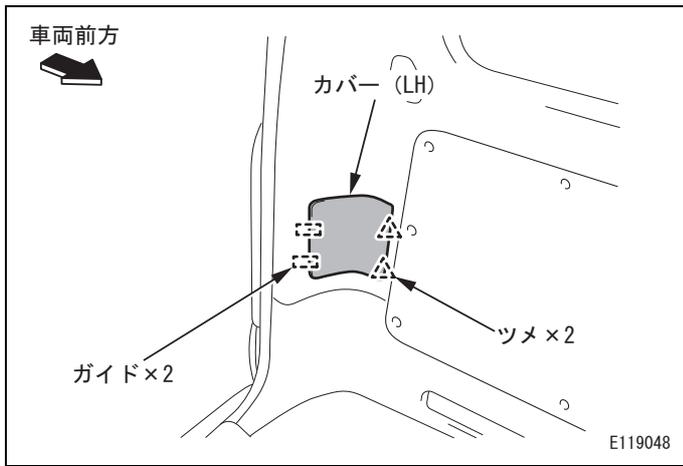
■平トリム (LH) 付き車かつ2列目シートベルト付き車の場合

(14) シートベルトリトラクターカバー (LH) を取りはずす。

- 1) ボルト (1 個) を緩める。
- 2) シートベルトリトラクターカバー (LH) (ガイド2箇所) を取りはずす。

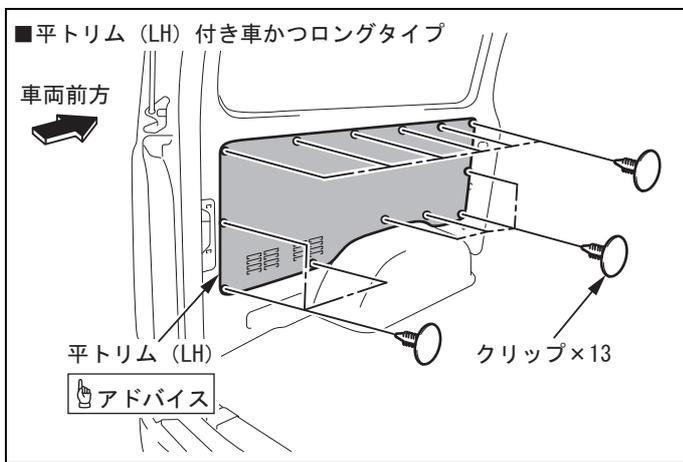
△注意

車両に傷が付かないように、左図の位置に保護テープを貼ってください。
(保護テープを貼らずに作業した場合、車両に傷が付くおそれがあります。)



■平トリム (LH) 付き車の場合

(15) カバー (LH) (ツメ2箇所、ガイド2箇所) を取りはずす。

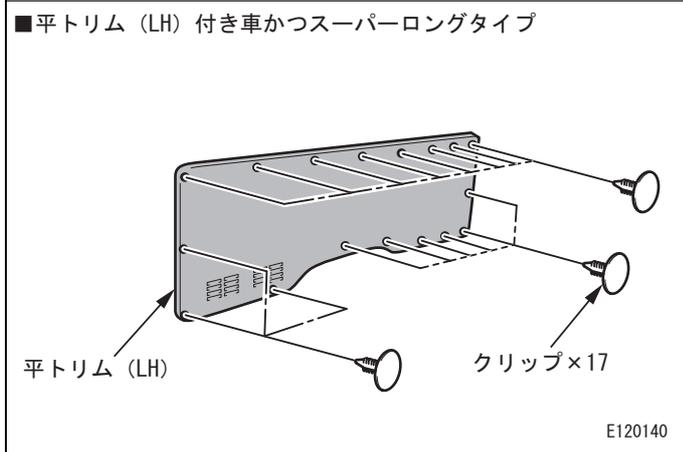


■平トリム (LH) 付き車かつロングタイプの場合

(16) 平トリム (LH) (クリップ13箇所) を取りはずす。

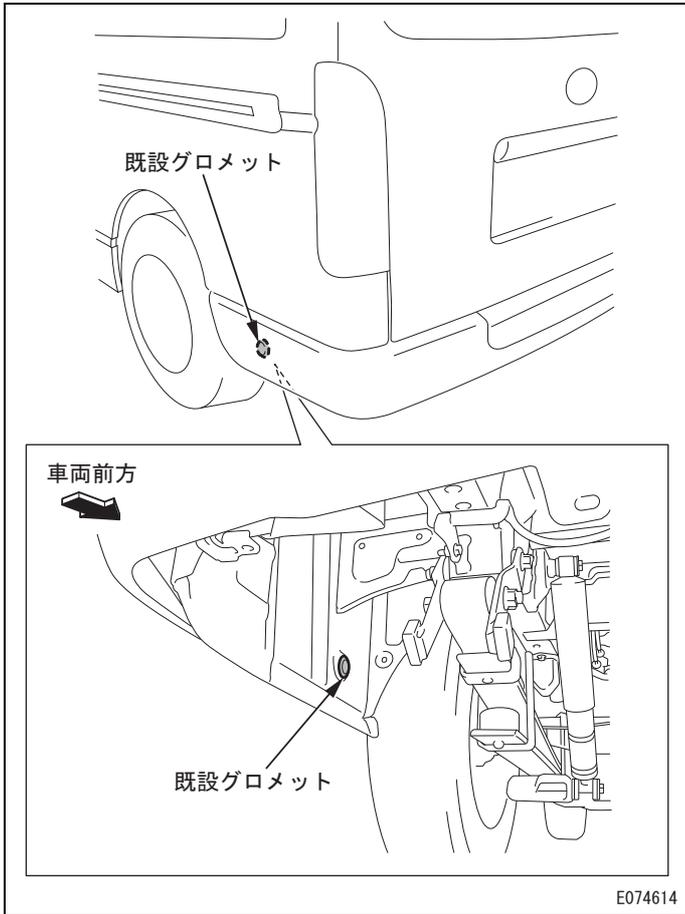
👉アドバイス

車両により形状が異なりますが、同様に作業をしてください。



■平トリム (LH) 付き車かつスーパーロングタイプの場合

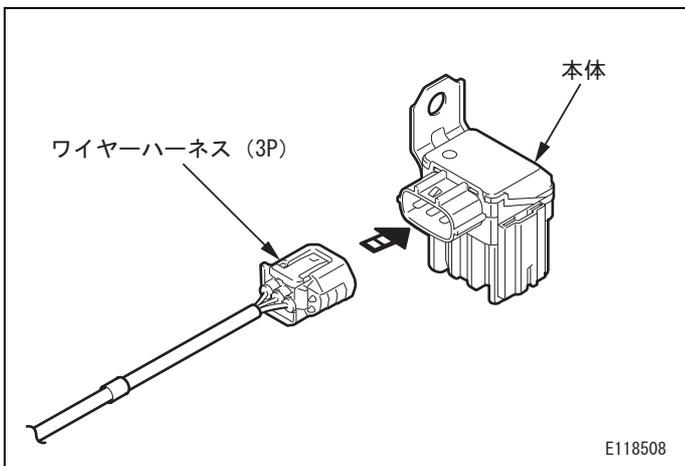
(17) 平トリム (LH) (クリップ17箇所) を取りはずす。



E074614

■ 共通

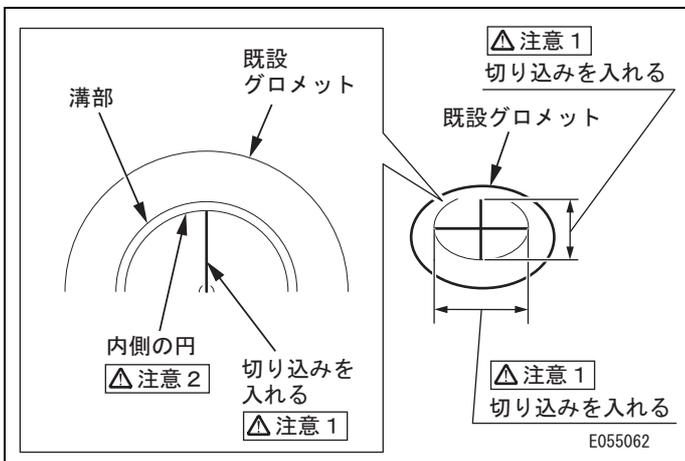
(18) 既設グロメットを取りはずす。



E118508

2. バックブザー本体の取り付け

(1) 本体にワイヤーハーネス (3P) を接続する。

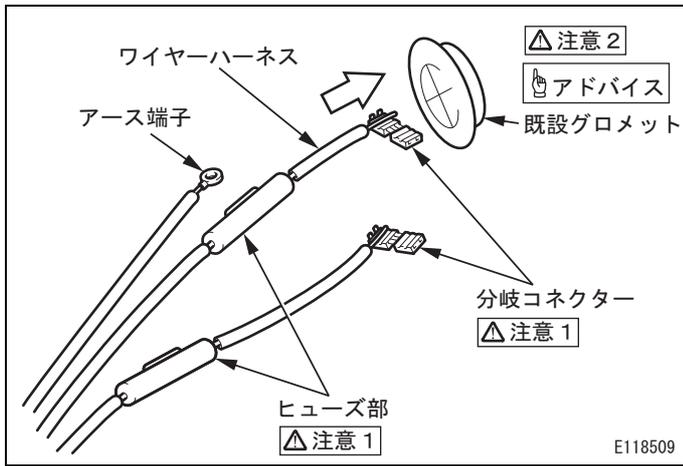


E055062

(2) 既設グロメットに切り込みを入れる。

△ 注意

1. 切り込み作業をする際、ケブラ手袋を着用してください。
(ケブラ手袋を着用しないで作業した場合、手にけがをすることがあります。)
2. 既設グロメットの内側の円を超えないように切り込みを入れてください。
(内側の円を超えた場合、製品の故障、破損につながるおそれがあります。)



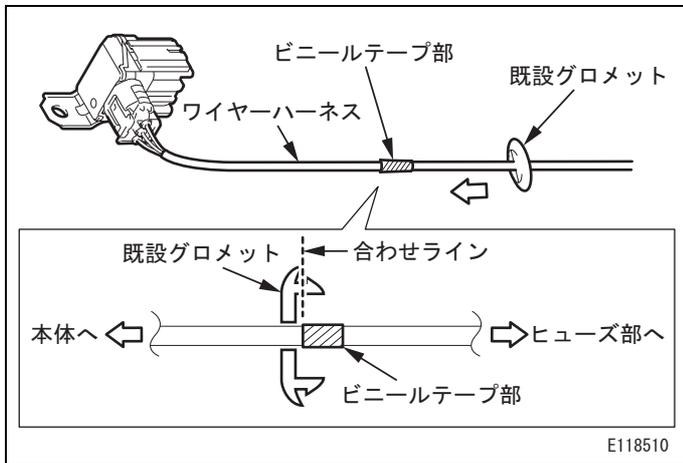
(3) 既設グロメットにワイヤーハーネスを通す。

△注意

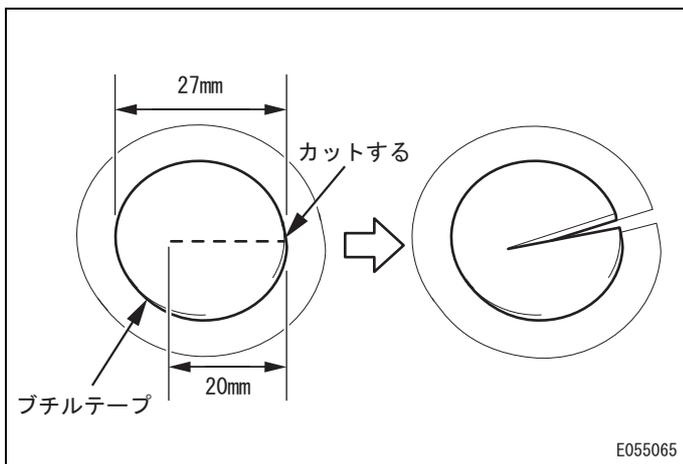
1. ワイヤーハーネスを通す際、無理に通さないでください。
(無理に通した場合、既設グロメットが破れるおそれがあります。)
2. 既設グロメットに通す際、分岐コネクタ、ヒューズ部およびアース端子をそれぞれ1個ずつ通してください。
(2個以上同時に通した場合、分岐コネクタ、ヒューズ部およびアース端子が破損するおそれがあります。)

アドバイス

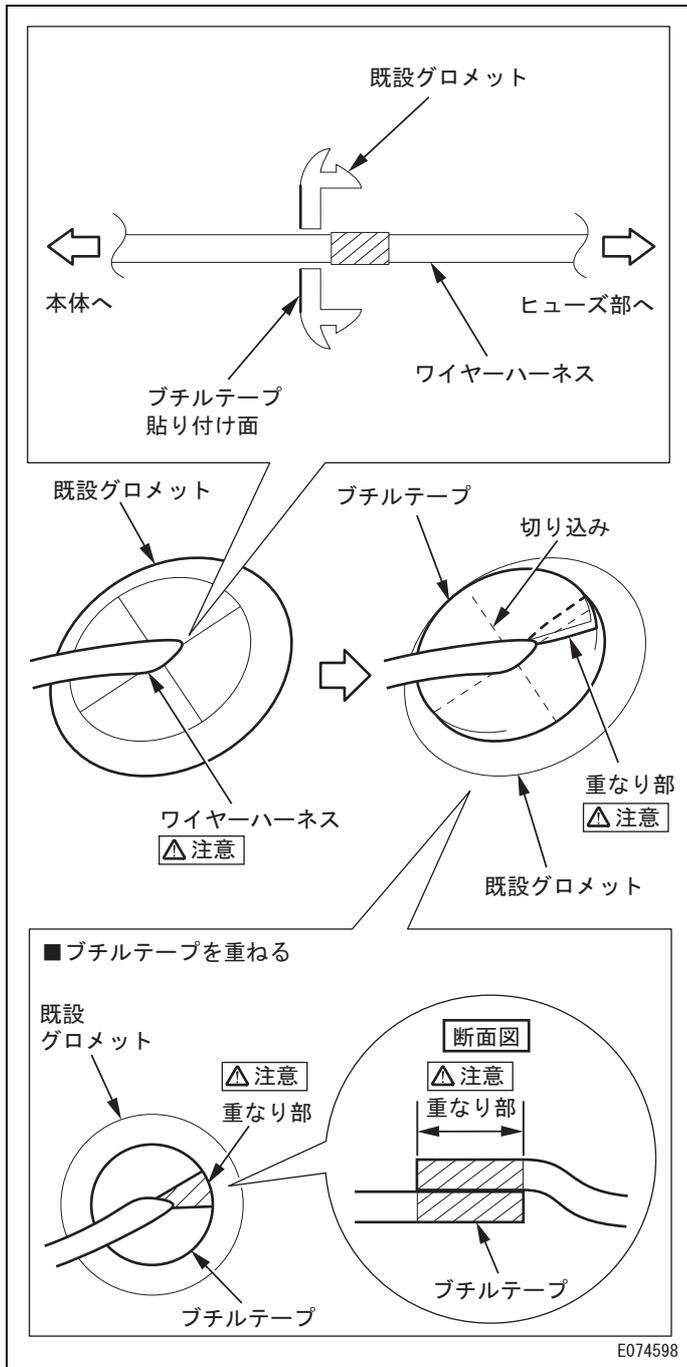
既設グロメットを左図の向きにしてワイヤーハーネスを通してください。



(4) 既設グロメットをワイヤーハーネスのビニールテープ部に合わせる。



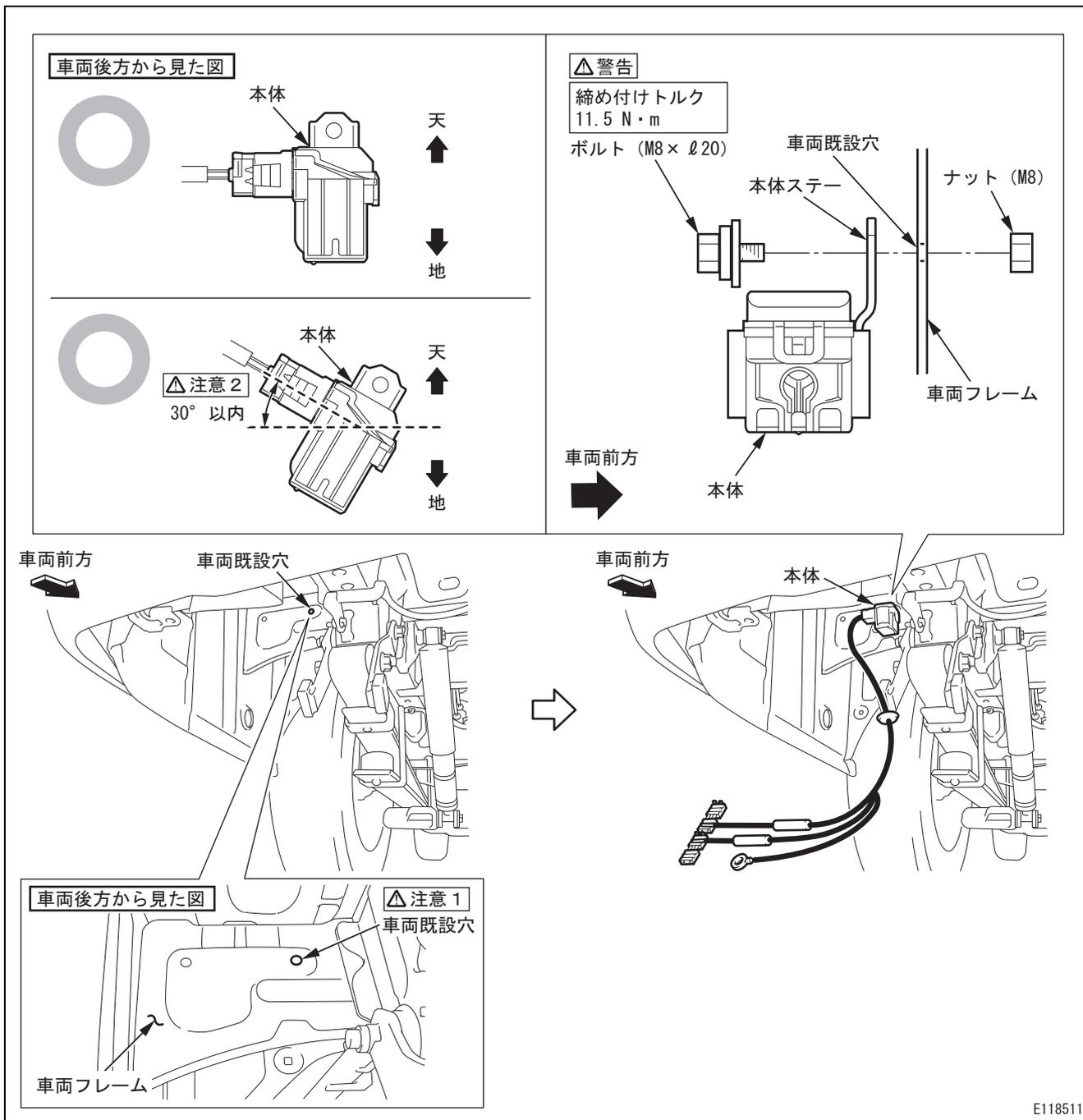
(5) プチルテープを左図の寸法に従ってカットする。



- (6) 既設グロメットのブチルテープ貼り付け位置のゴミ、ホコリ、油污れなどを脱脂剤等で十分に脱脂する。
- (7) ワイヤハーネスカバーを平たくしながら、既設グロメットにカットしたブチルテープを貼り付ける。

△注意

- ・ブチルテープを貼り付ける際、ワイヤーハーネスカバーの周りにすき間ができないようにブチルテープを貼り付けてください。
(すき間ができた場合、車両への水浸入のおそれがあります。)
- ・既設グロメットの切り込みを塞ぐように、重ねてブチルテープを貼り付けてください。
(切り込みを塞がなかった場合、車両への水浸入のおそれがあります。)



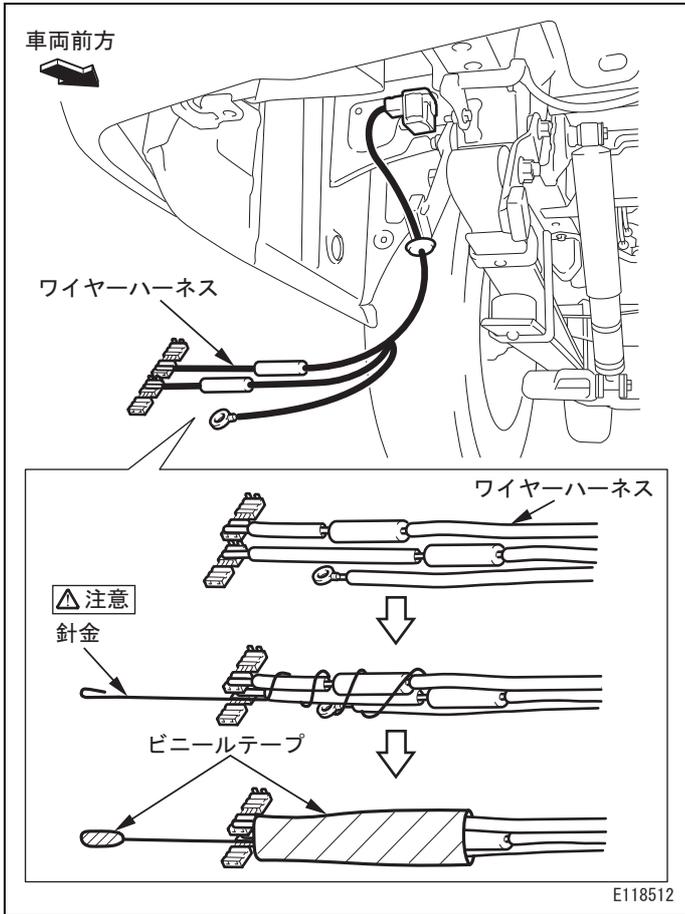
(8) 上図のように本体をボルト (M8× ϕ 20) およびナット (M8) で車両フレームに取り付ける。

警告

締め付けトルクを厳守して作業してください。
11.5 N・m

注意

1. 本体を車両フレームに取り付ける際、車両既設穴を間違えないようにしてください。
(車両既設穴を間違えた場合、製品を正しく取り付けることができなくなります。)
2. 本体の取り付け角度は地面に対して必ず水平 (水平方向より 30° 以内) に取り付けてください。
(上記作業を守らなかった場合、製品の故障、破損につながるおそれがあります。)



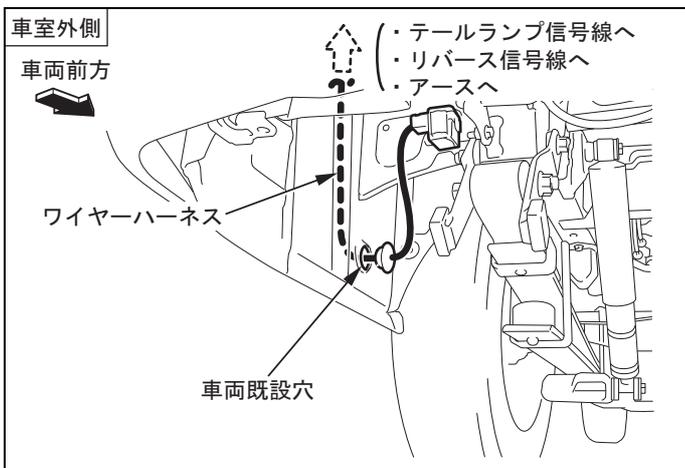
3. 配線作業

- (1) 針金をワイヤーハーネスにビニールテープで固定する。

注意

ワイヤーハーネスを針金で傷付けないように固定してください。

(ワイヤーハーネスを傷付けた場合、ワイヤーハーネスが断線するおそれがあります。)

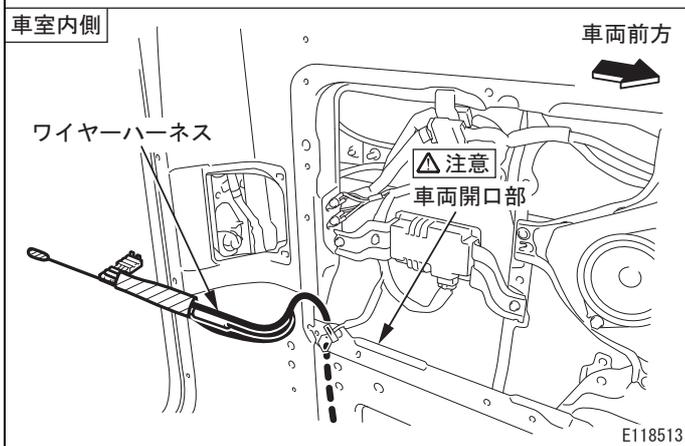


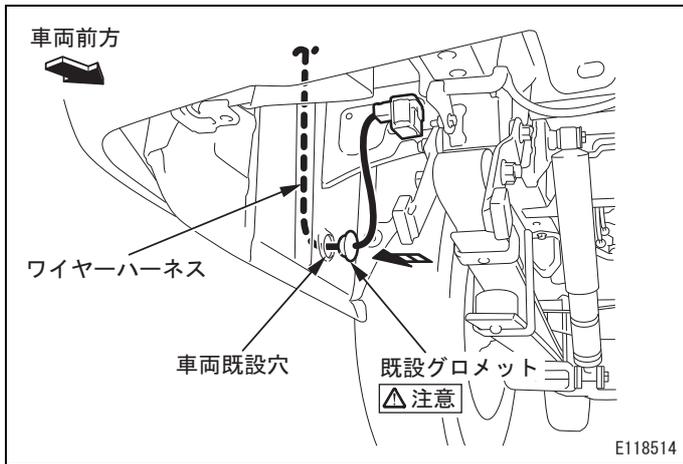
- (2) ワイヤーハーネスを左図のように車両既設穴から車室内へ取り廻す。

注意

車両開口部内での作業をする場合、ケブラ手袋を着用してください。

(ケブラ手袋を着用しないで作業した場合、開口部などのエッジ部でけがをするおそれがあります。)

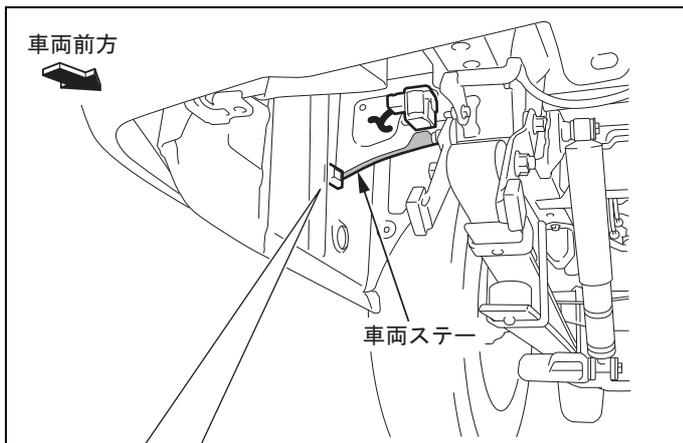




- (3) 針金をワイヤーハーネスから取りはずす。
- (4) 車両既設穴に既設グロメットを取り付ける。

△ 注意

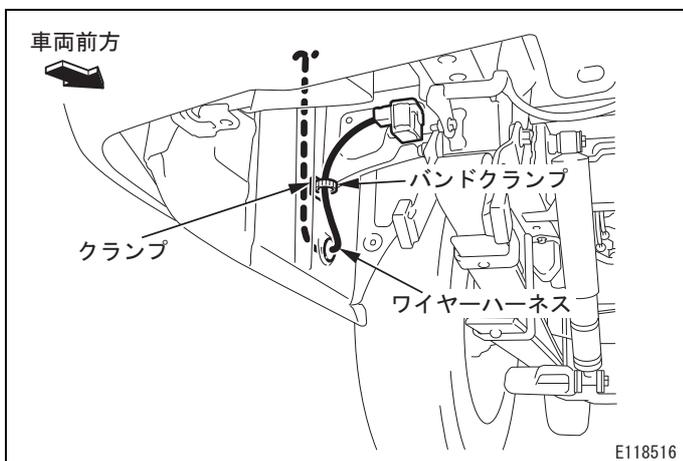
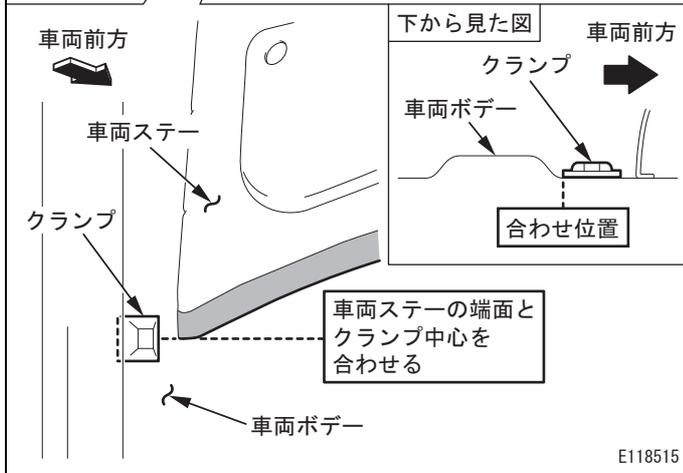
- ・既設グロメットを取り付ける際、ブチルテープがはがれないようにしてください。
- ・既設グロメットが確実にはめ込まれていることを確認してください。
(既設グロメットが確実にはめ込まれていない場合、車両への水浸入のおそれがあります。)



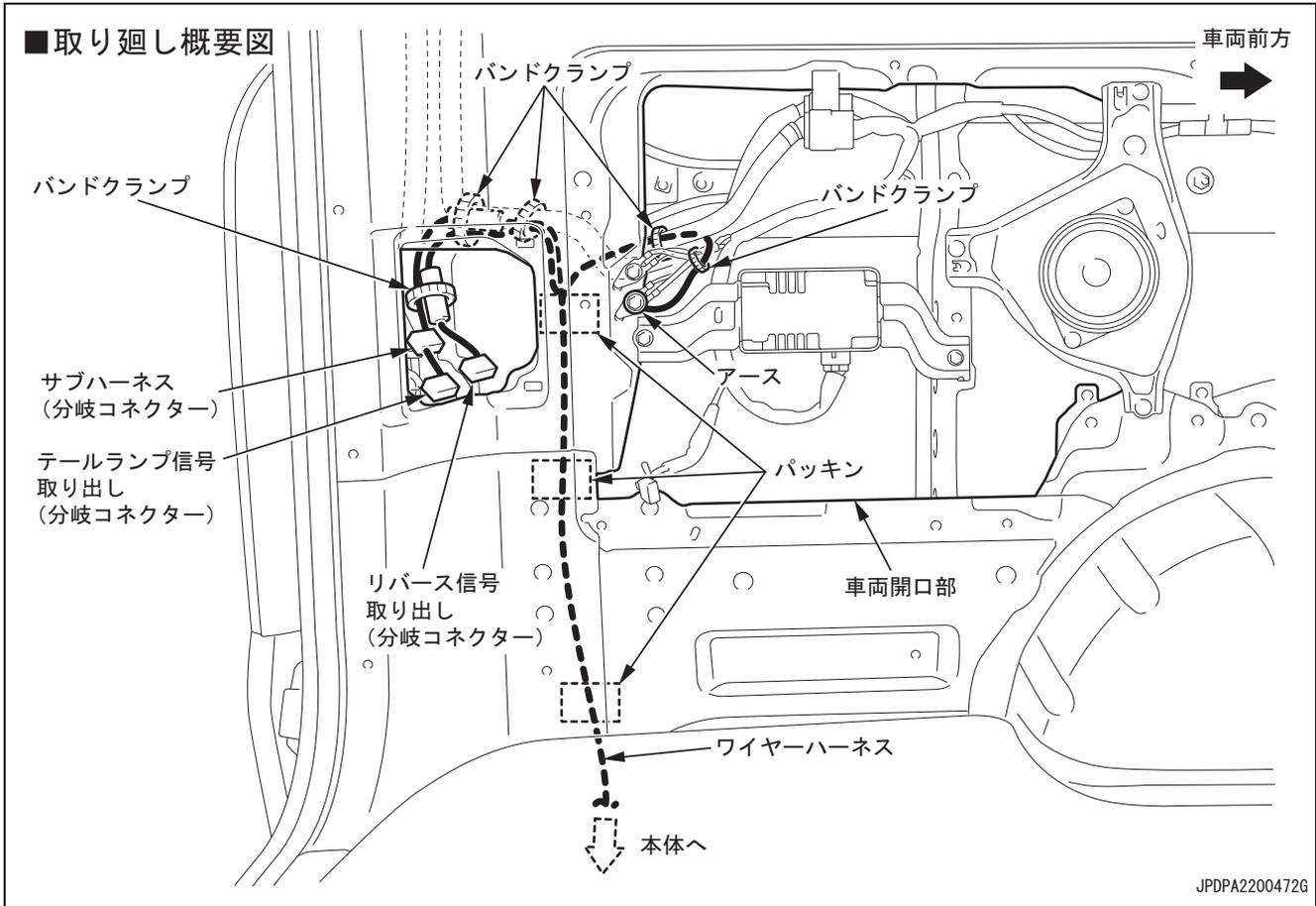
- (5) クランプ 1 個を車両ボデーの左図の位置に貼り付ける。

👉 アドバイス

- ・クランプ貼り付け位置のゴミ、ホコリ、油汚れなどを取り除いてから貼り付けてください。
- ・クランプを貼り付ける際、クランプがはがれないよう手で圧着してください。

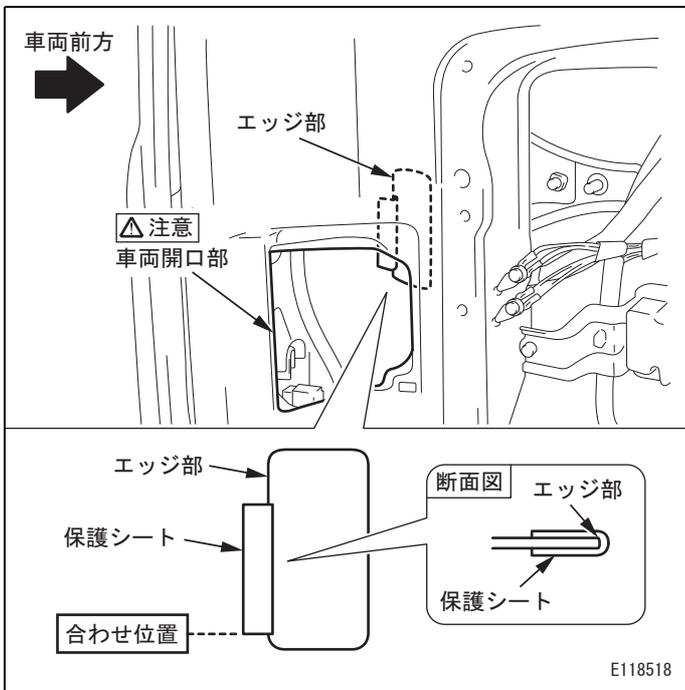


- (6) ワイヤーハーネスをクランプにバンドクランプ 1 本で固定する。



👉 アドバイス

上図はワイヤーハーネス取り廻し概要を示します。



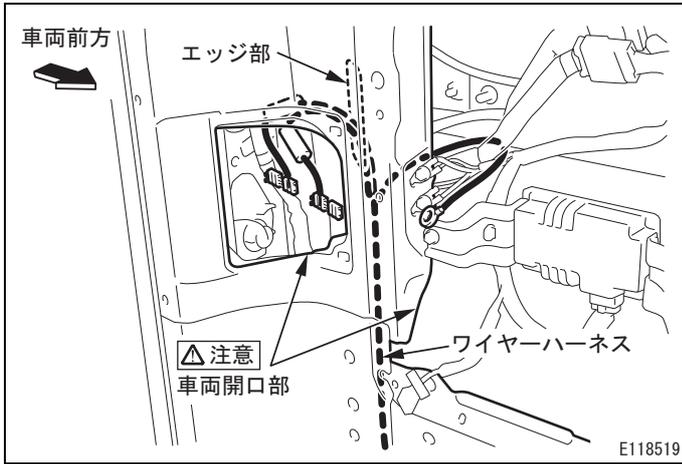
(7) 保護シート1枚をエッジ部の左図の位置に貼り付ける。

⚠ 注意

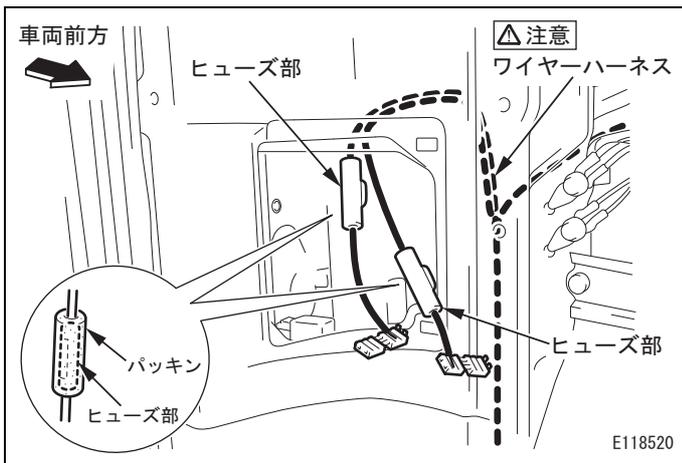
車両開口部内での作業をする際、ケブラ手袋を着用してください。また、以降の作業も同様にケブラ手袋を着用してください。
(ケブラ手袋を着用しないで作業した場合、開口部などのエッジ部でけがをするおそれがあります。)

👉 アドバイス

保護シート貼り付け位置のゴミ、ホコリ、油污れなどを取り除いてから貼り付けてください。

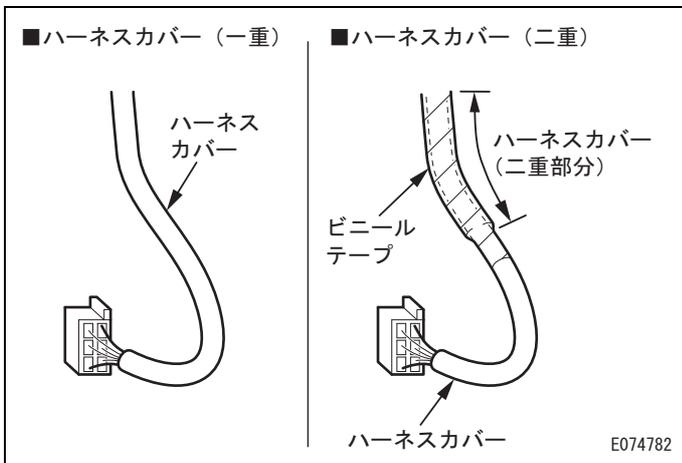


(8) ワイヤーハーネスを左図のように取り廻す。

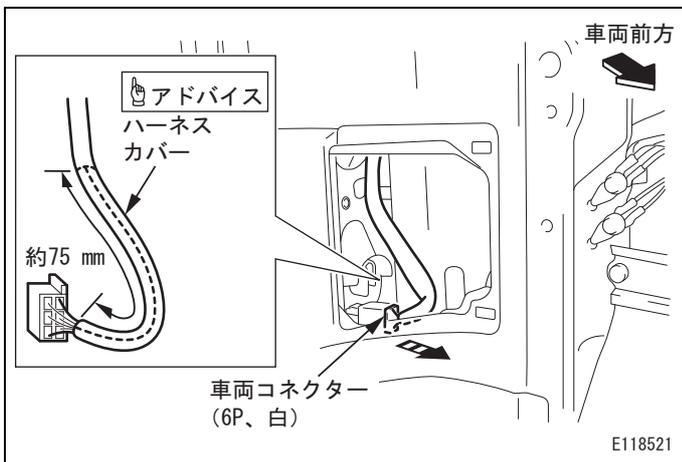


(9) ワイヤーハーネスのヒューズ部にパッキン各1枚を巻く。(2箇所)

注意
ヒューズ部にパッキンを巻く際、ワイヤーハーネスを引っ張り過ぎないでください。
(ワイヤーハーネスを引っ張り過ぎた場合、既設グロメットがはずれてしまうおそれがあります。)



アドバイス
以降の作業をする際、車両により車両ハーネスが2種類ありますが、同様の作業をしてください。



(10) 車両コネクタ (6P、白) を取りはずす。
(11) 車両コネクタ (6P、白) から約75 mmの位置までハーネスカバーを切り取る。

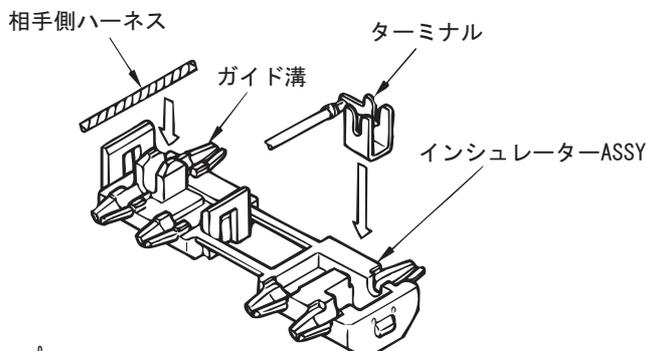
アドバイス
切り取ったハーネスカバーは、後工程で再使用するため、紛失しないようにしてください。

分岐コネクタの接続方法

1) 相手側ハーネスをインシュレーターASSYにセットする。

👉 アドバイス

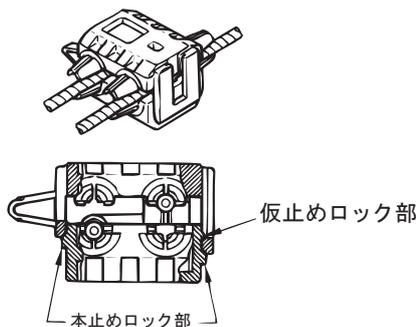
圧接する車両ハーネスは、確実にガイド溝へ入れてください。



👉 アドバイス

ターミナルは、インシュレーターに組み付けられているが、万一はずれていた場合には、ターミナルに圧入用の穴があるので完全に圧入されるまでターミナルを矢印の方向に押し込んでください。

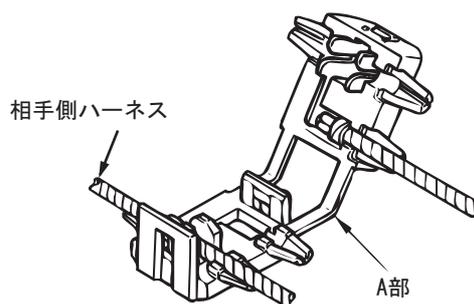
3) 仮止めの状態にする。



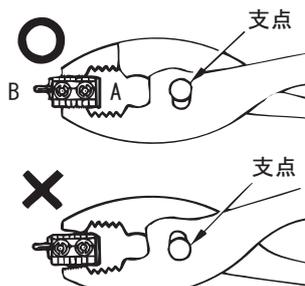
👉 アドバイス

仮止めのロックは、片側にしか設けられていないので、本止めのロックが上下合う位置で止めておいてください。

2) コネクタのA部を支点にして折り返す。



4) 仮止めされているコネクタをプライヤーの先端面全体でA-B均等に力が加わるようにコネクタの中央部をはさみ込み、左右の固定部が掛かるまで圧着する。

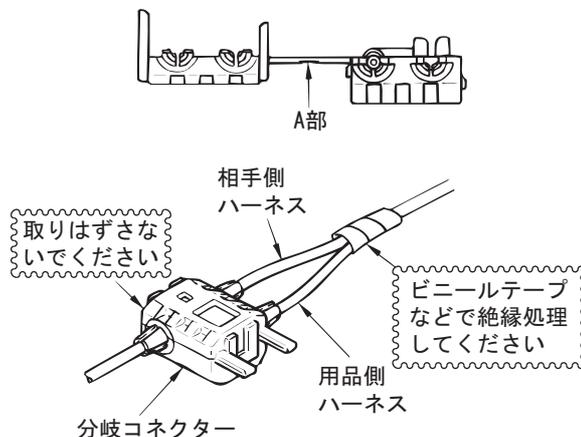


👉 アドバイス

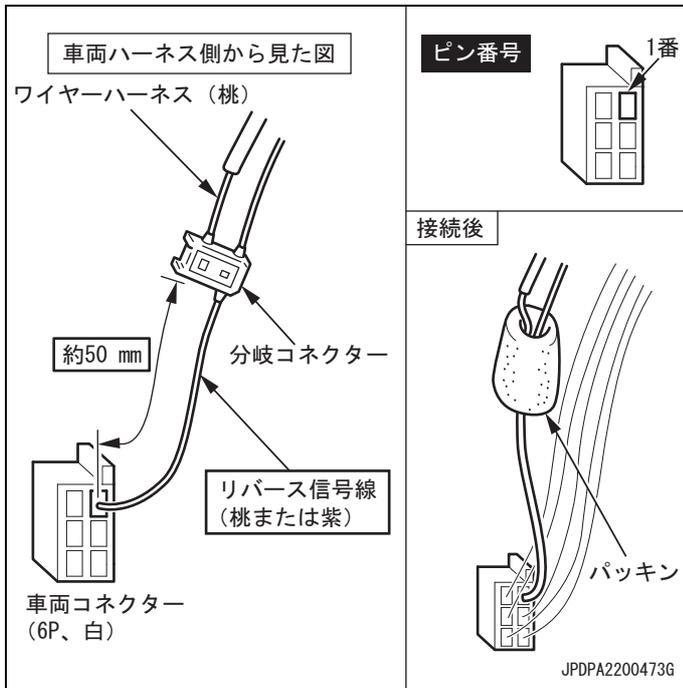
はさみ込むときは、左右のロックのクリック音を確認してください。

分岐コネクタ接続上の注意

1. A部が折れた場合でも性能には影響がないのでそのまま使用してください。
2. 一度使用したものは再使用しないこと。また、取りはずす際には、コネクタを相手側ハーネスに圧接したまま用品側ハーネスを30mm程度残して切り離し、ビニールテープなどで絶縁処理してください。



E114698

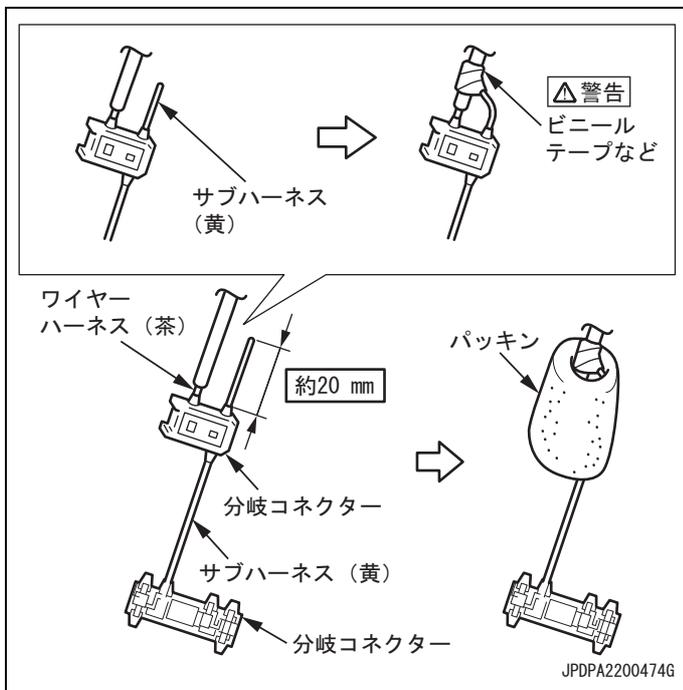


- (12) 車両コネクタ（6P、白）から約 50 mm 離して、分岐コネクタ（線色：桃）を車両ハーネスのリバース信号線（1 番、線色：桃または紫）に接続する。
（分岐コネクタの接続方法 P18 参照）

△ 注意

線色、位置を確かめたのち接続してください。特に類似ワイヤーへの接続まちがいのないようにしてください。
（線色、位置を誤って接続した場合、車両や製品の故障、破損につながるおそれがあります。）

- (13) 分岐コネクタ接続部にパッキン 1 枚を巻く。



- ボディ幅：標準かつルーフ高さ：標準かつルームランプ SW：レバー式かつ室内ミラー：プリズム / EC ミラーの場合

👉 アドバイス

サブハーネスの要否判定は P4 の「サブハーネスの要否判定フローチャート」を参照してください。

- (14) ワイヤーハーネスにサブハーネスを約 20 mm あまらせた状態で接続する。
（分岐コネクタの接続方法 P18 参照）
(15) あまったサブハーネスを絶縁処理する。

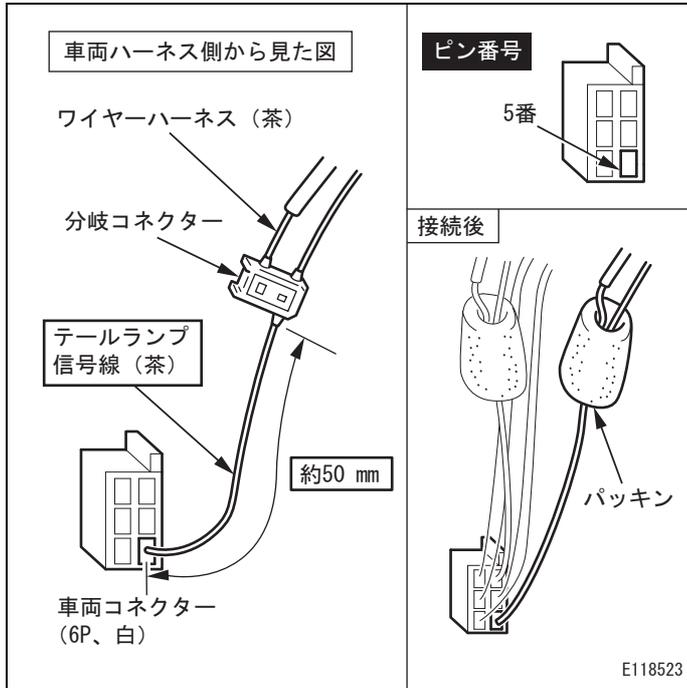
△ 警告

絶縁処理をせずに作業を行い、ショートした場合、傷害、火災および車両や製品の故障、破損につながるおそれがあります。

△ 注意

車両側の信号線の線径が 0.35sq のため、キット同梱のサブハーネスでテール信号線と接続してください。
サブハーネスを使用しなかった場合、製品が作動しないおそれがあります。

- (16) 分岐コネクタ接続部にパッキン 1 枚を巻く。



■ 共通

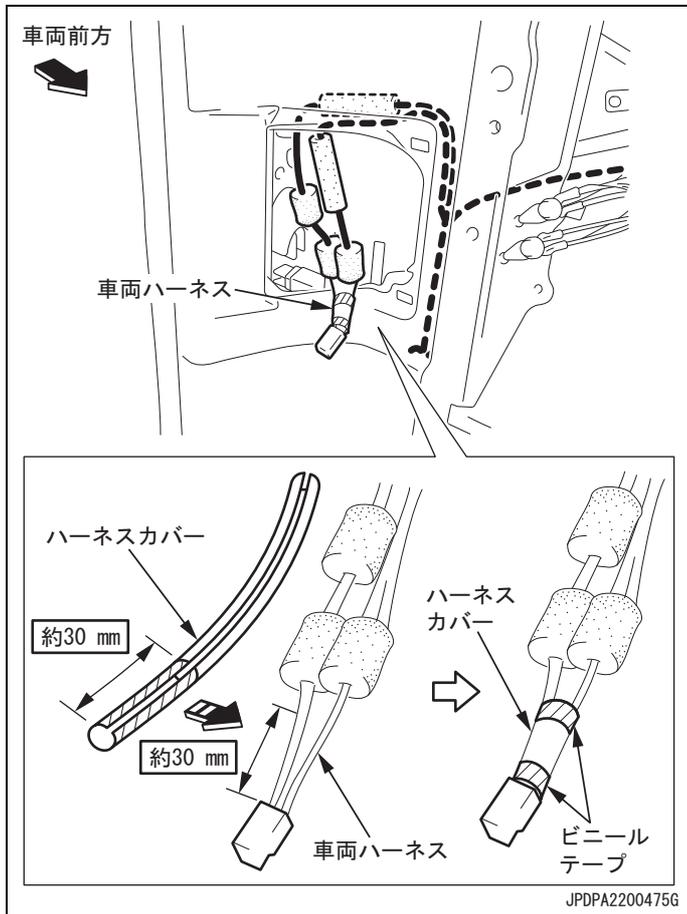
- (17) 車両コネクタ (6P、白) から約 50 mm 離して、ワイヤーハーネスの分岐コネクタ (線色：茶)、またはサブハーネスの分岐コネクタ (線色：黄) を車両ハーネスのテールランプ信号線 (5 番、線色：茶) に接続する。

(分岐コネクタの接続方法 P18 参照)

△ 注意

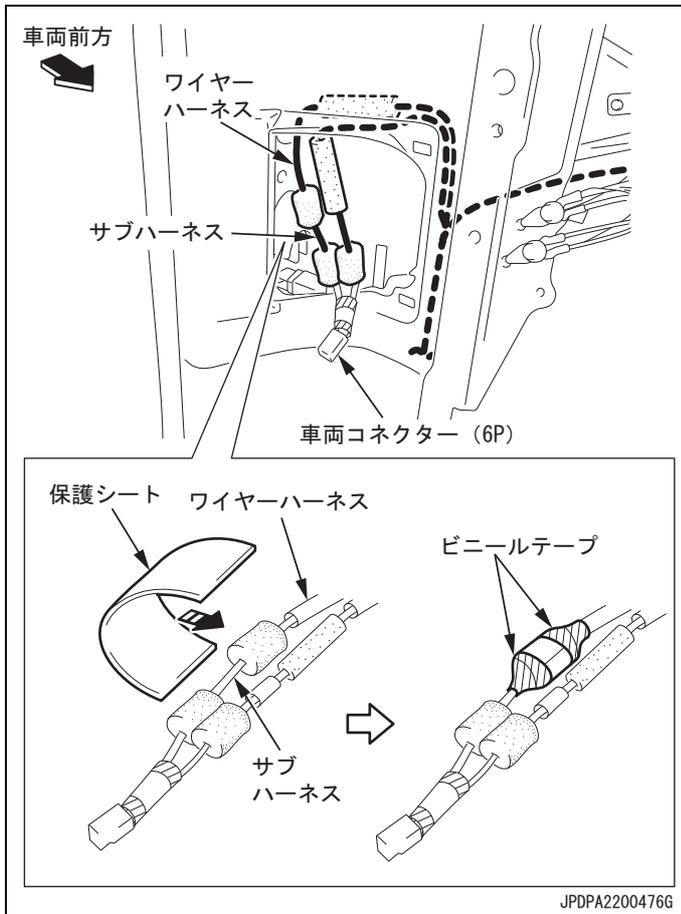
線色、位置を確かめたのち接続してください。特に類似ワイヤーへの接続まちがいのないようにしてください。
(線色、位置を誤って接続した場合、車両や製品の故障、破損につながるおそれがあります。)

- (18) 分岐コネクタ接続部にパッキン 1 枚を巻く。



- (19) 切り取ったハーネスカバーを約 30 mm にカットする。

- (20) カットしたハーネスカバー (約 30 mm) を車両ハーネスの左図の位置に巻き付け、ビニールテープで固定する。



■ボディ幅：標準かつルーフ高さ：標準かつルームランプ SW：レバー式かつ室内ミラー：プリズム/ECミラーの場合

👉 アドバイス

サブハーネスの要否判定はP4の「サブハーネスの要否判定フローチャート」を参照してください。

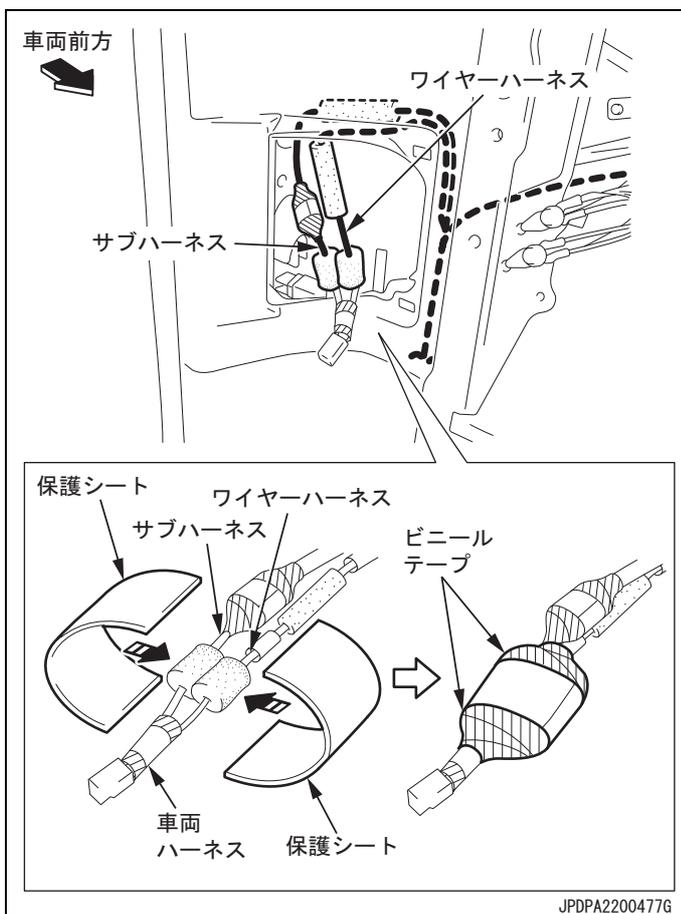
(21) パッキンを巻いた分岐コネクタ接続部およびサブハーネスを保護シート1枚で包み込む。

⚠️ 注意

リード線が保護シートで覆われていることを確認してください。

(リード線が保護シートで覆われていない場合、リード線が車両エッジ部に干渉し、断線するおそれがあります。)

(22) 保護シートを巻いた分岐コネクタ接続部にビニールテープを巻く。



■共通

(23) パッキンを巻いた分岐コネクタ接続部および車両ハーネスを保護シート2枚で包み込む。

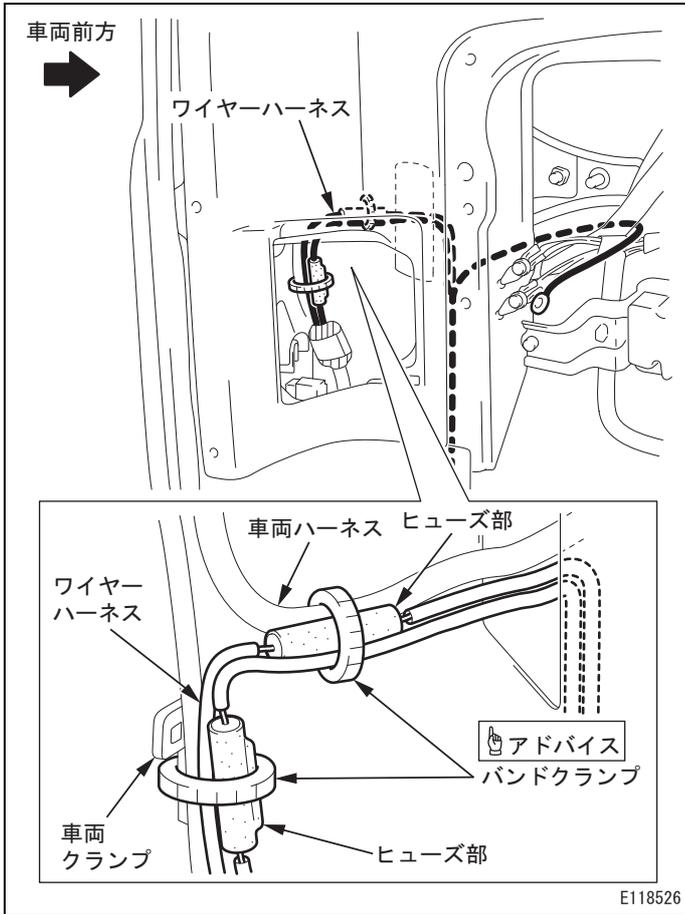
⚠️ 注意

リード線が保護シートで覆われていることを確認してください。

(リード線が保護シートで覆われていない場合、リード線が車両エッジ部に干渉し、断線するおそれがあります。)

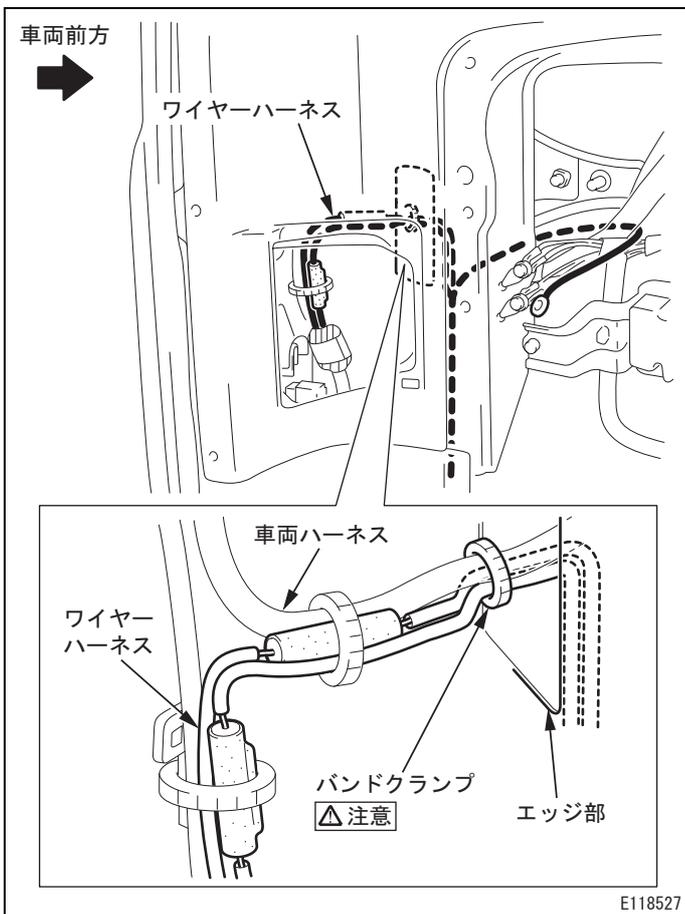
(24) 保護シートを巻いた分岐コネクタ接続部にビニールテープを巻く。

(25) 車両コネクタ (6P、白) を元の位置に復元する。



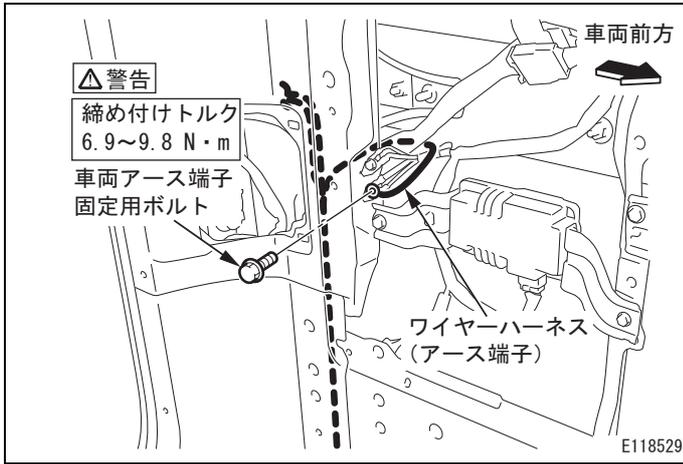
(26) ワイヤーハーネスのヒューズ部を車両ハーネスにバンドクランプ2本で固定する。

アドバイス
ワイヤーハーネスのヒューズ部を車両ハーネスの車両内側で固定してください。



(27) ワイヤーハーネスを車両ハーネスにバンドクランプ1本で固定する。

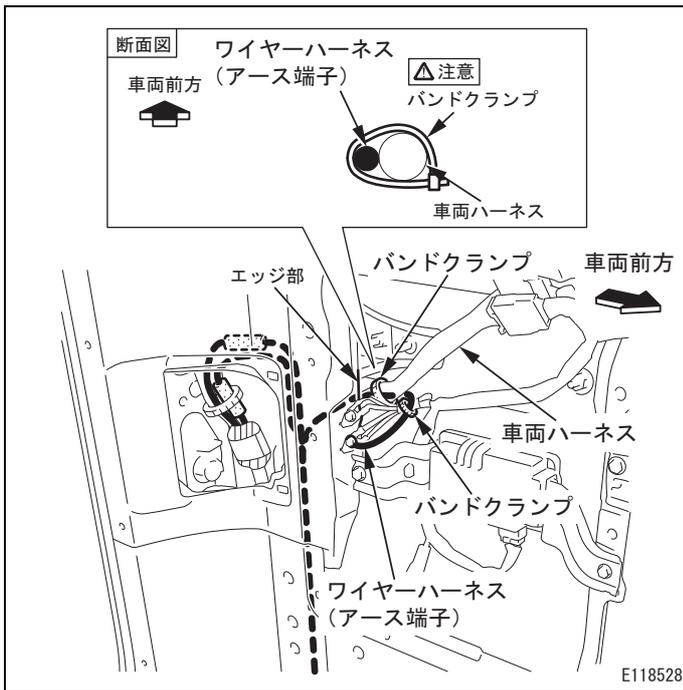
注意
ワイヤーハーネスがエッジ部に干渉しないようにバンドクランプで固定してください。
(エッジ部に干渉した場合、ワイヤーハーネスが断線するおそれがあります。)



(28) ワイヤーハーネスを車両アース端子固定用ボルトで共締めする。

警告

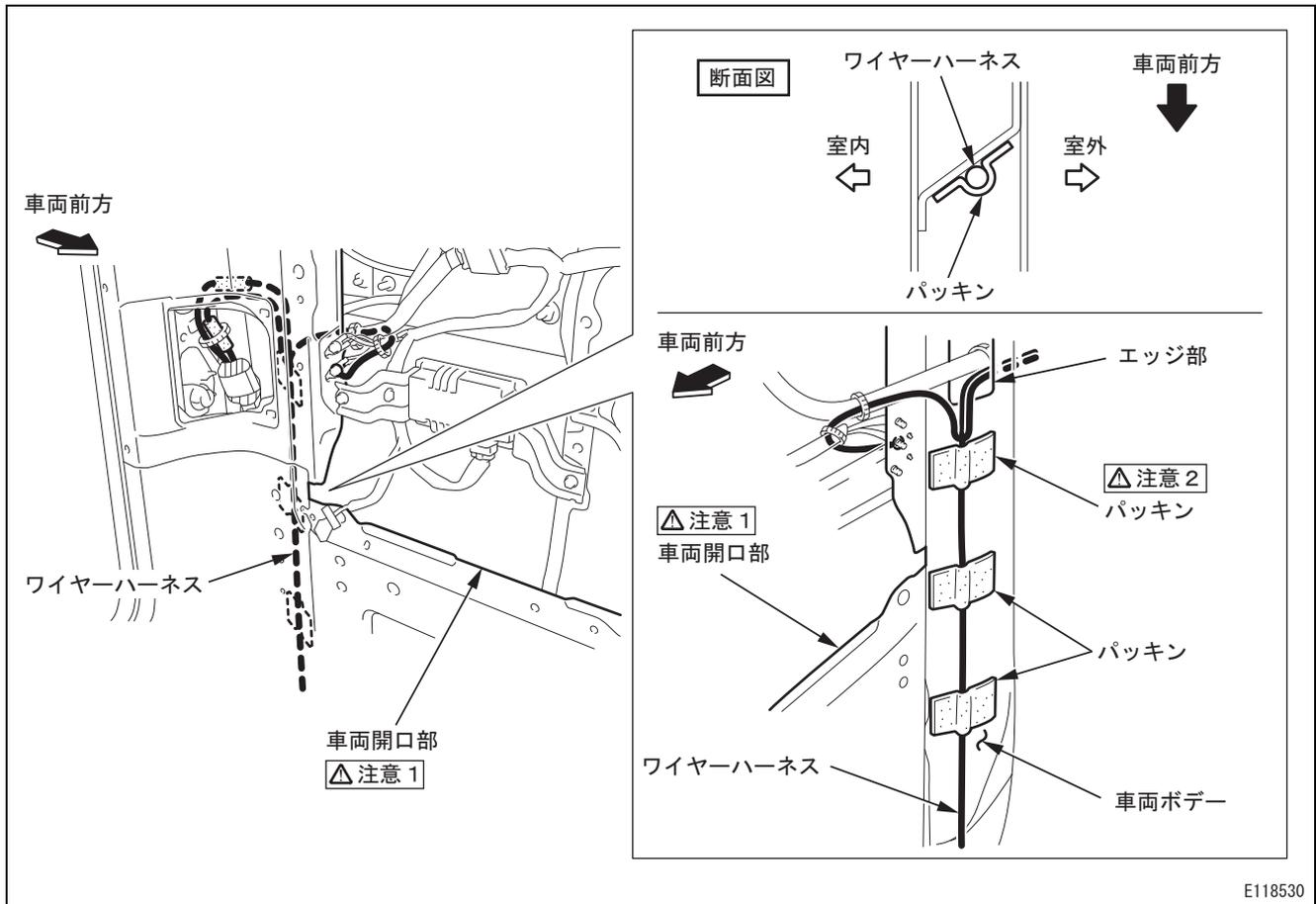
締め付けトルクを厳守して作業してください。
6.9 ~ 9.8 N・m



(29) ワイヤーハーネスを車両ハーネスにバンドクランプ2本で固定する。

注意

ワイヤーハーネスを車両ハーネスの車両外側にして固定してください。
(車両外側にして固定しなかった場合、エッジ部に干渉し、ワイヤーハーネスが断線するおそれがあります。)

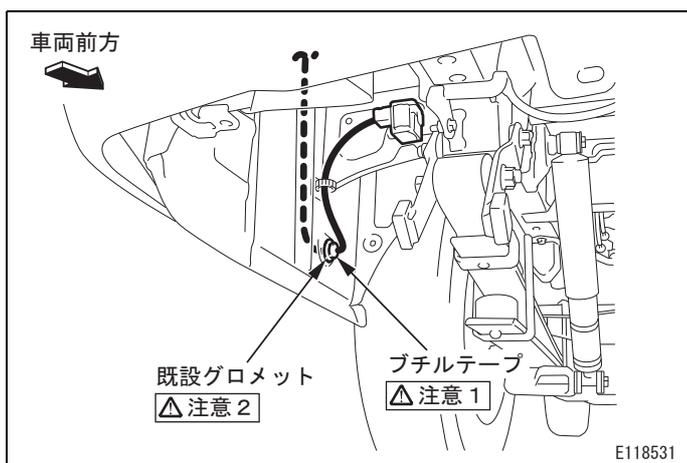


E118530

(30) ワイヤーハーネスを車両ボデーにパッキン3枚で固定する。

△注意

1. 車両開口部内で作業をする際、腕まくりをしないでください。
(腕まくりをして作業した場合、車両開口部で腕にけがをすることがあります。)
2. ワイヤーハーネスを固定する際、ワイヤーハーネスがエッジ部に干渉しないようにパッキンで固定してください。
(ワイヤーハーネスがエッジ部に干渉した場合、ワイヤーハーネスが断線することがあります。)



E118531

4. 既設グロメットの取り付け確認

△注意

1. 既設グロメットにブチルテープが確実に貼り付けられていることを確認してください。
(ブチルテープが確実に貼り付けられていない場合、車両への水浸入のおそれがあります。)
2. 既設グロメットが確実にはめ込まれていることを確認してください。
(既設グロメットが確実にはめ込まれていない場合、車両への水浸入のおそれがあります。)

最終確認

1. 取り付けの確認

- (1) 配線や取り付けに異常がないか点検する。
- (2) 特に車両ハーネスおよびワイヤーハーネスを無理に押ししたり、引っ張ったり、噛み込んだりしていないか点検する。また部品の締め付け忘れはないかもう一度確認する。

2. 作動確認

△注意

輪止めにより、車両が動かないようにしてください。

- (1) バッテリーの(－)端子に車両ハーネスを接続する。
- (2) 運転席および助手席のウィンドウを開ける。
- (3) バックブザーが下記の「作動確認要領」通りに作動するか確認する。

■作動確認要領

	(操作手順)	(確認項目)
(1)	IG ONにする。(エンジンは始動させない。)	バックブザーの消音確認
(2)	IG ONのまま、シフトレバーを「R(リバース)」へシフトする。	バックブザーの吹鳴確認
(3)	シフトレバーを「R(リバース)」のまま、テールランプを点灯させる。	バックブザーの減音確認
(4)	テールランプを点灯のまま、シフトレバーを「R(リバース)」以外へシフトする。	バックブザーの消音確認

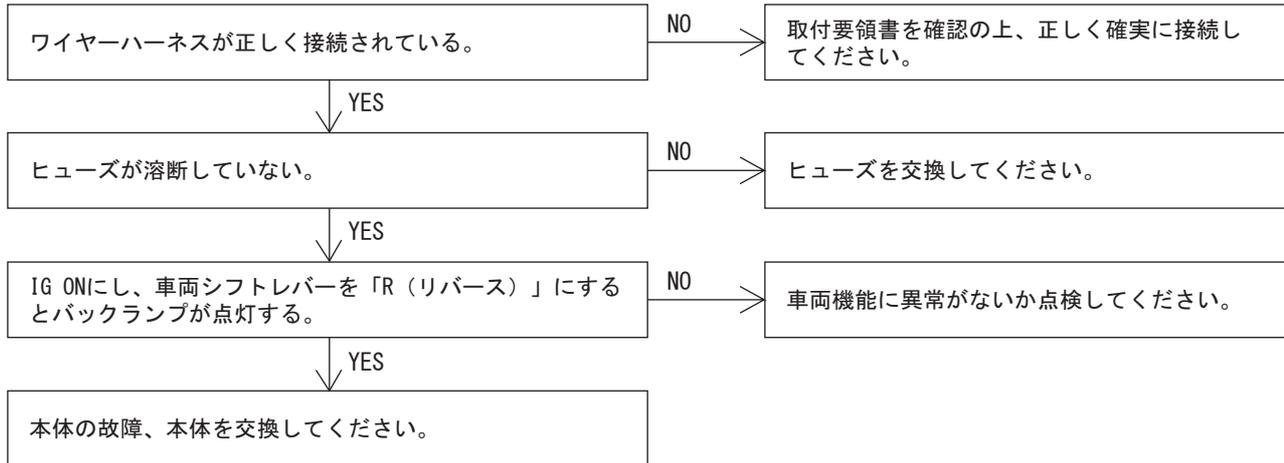
E118532

トラブルシュート

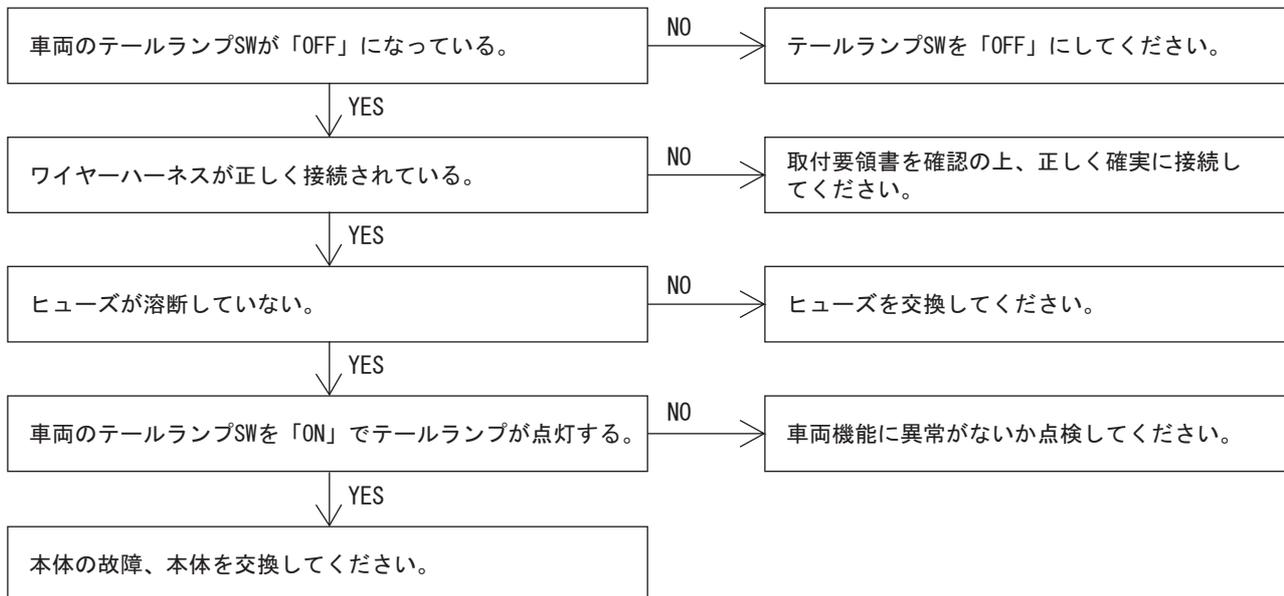
△注意

- ・ 輪止めにより、車両が動かないようにしてください。
- ・ 絶対にエンジンをかけた状態で作業しないでください。
(エンジン停止中の作動は、バッテリー上がりになるおそれがありますので注意してください。)

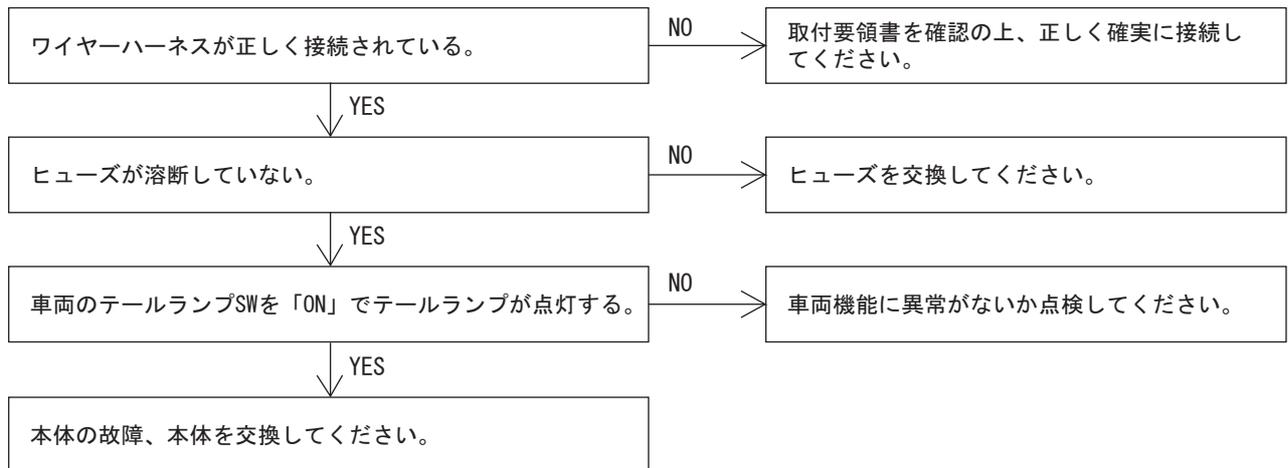
1 シフトレバー「R（リバース）」時、ブザーが吹鳴しない



2 シフトレバー「R（リバース）」時、ブザー音が小さい



3 テールランプSW「ON」時、ブザー音が小さくならない



E119750

復元作業

「作動確認」完了後、取りはずした部品を元通りに復元する。

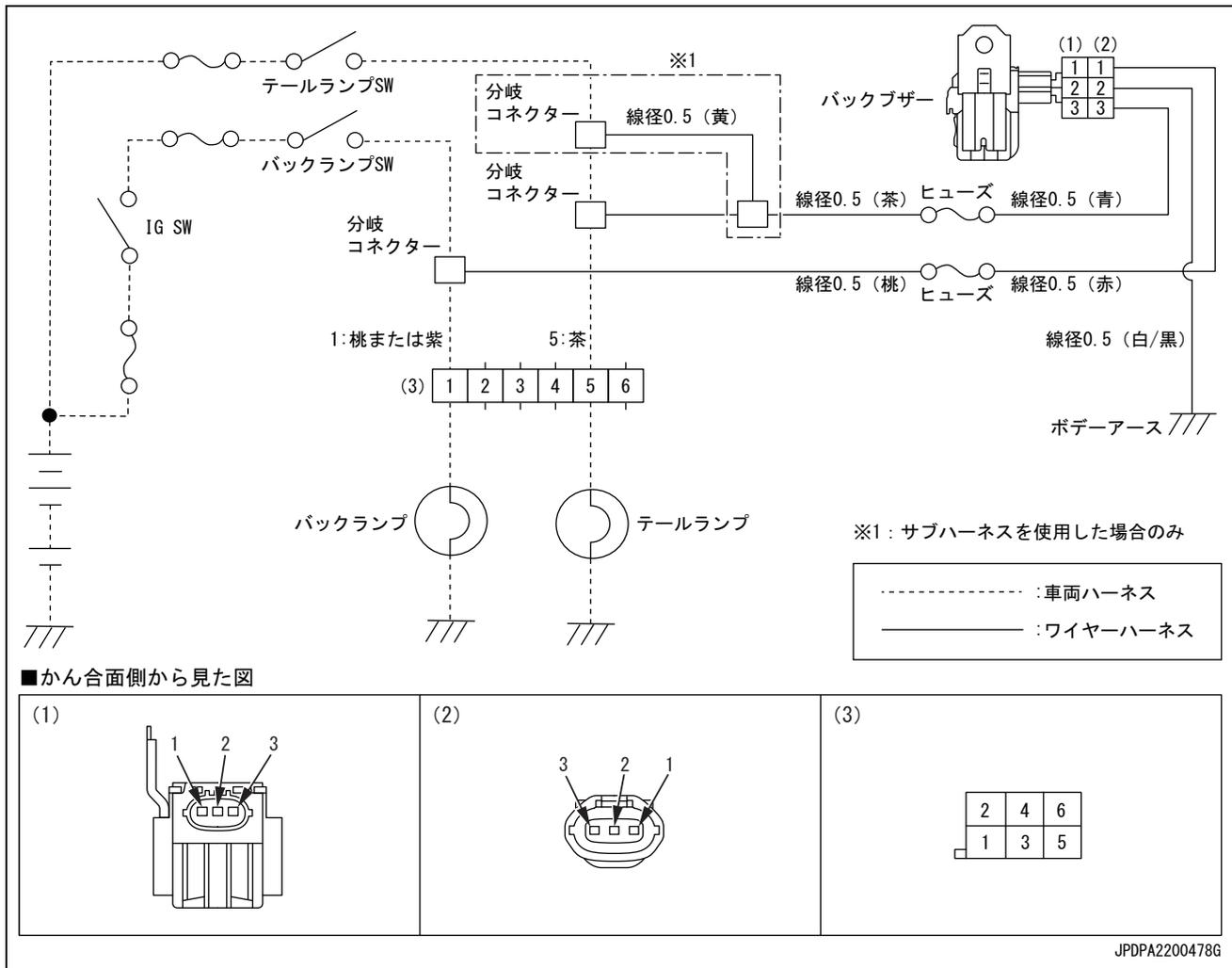
■バッテリー復元時の注意事項

△注意

バッテリー復元作業終了後に、車両システムによっては初期化が必要な部品があります。車両修理書を参考に初期化作業をしてください。

(車両システムの初期化には、GTS等のツールが必要な場合があります。)

配線図



仕様

仕 様		
公 称 電 圧	12 V	
電 流	50 mA 以下	
作 動 電 圧 範 囲	8 ~ 16 V	
使 用 温 度 範 囲	- 30 ~ + 80 °C	
保 存 温 度 範 囲	- 40 ~ + 85 °C	
音圧レベル	通常吹鳴時	87 dB (A) (※)
	減音吹鳴時	70 dB (A) (※)

※：ブザー単品での仕様です。

注：仕様は製品改良のため予告なく変更することがあります。

取り付け店殿へのお願い

- ・バックブザーを取り付けても、自動車を後退させようとするときは必ず車の後方の安全を確認するようお客様にご説明ください。
- ・このバックブザーは“夜間減音機構付き（テールランプが点灯すると減音となる。）”であることをお客様にご説明ください。

・車両、製品の仕様などの変更により本書の内容と一致しない場合がありますのでご了承ください。

発行年月 2020年 5月
改訂年月 2026年 1月